

RYOBI GROUP

発行

両備ホールディングス株式会社



RYOBI GROUP WEB



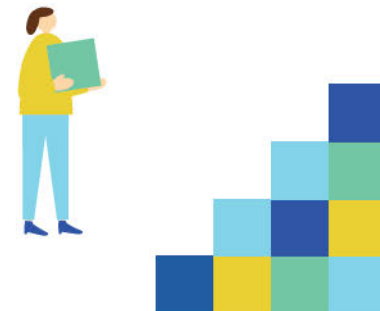
この冊子は石灰石から生まれた新素材 LIMEX でつくられており、水資源の利用を抑えています



1冊あたり約 **12L** 削減

LIMEXを使用することで、従来の印刷物と比較して、
製造時の水使用量を(約97.7%)削減しています。
※一般的なコート紙(90kg)製冊子と比較





両備グループ サステナビリティレポート

RYOBISION

2026





はじめに

両備グループは、お客様と地域に支えていただき、2025年に創立115年目を迎えました。

さまざまな交通モードに対応する「トランスポーテーション&トラベル部門」、

新たな技術で次代を創る「ICT部門」、暮らしを支え暮らしを楽しむ「くらしづくり部門」、

都市再生と新時代のまちづくりに挑む「まちづくり部門」の4つの事業セグメントに加え、美術館運営や生物学分野への助成活動、

地域公共交通維持のための研究所運営などを担う「社会貢献部門」を加えた5部門で、地域とともに歩んでまいりました。

次の100年もお客様の生活、地域のお役に立てる企業を目指して、

環境や経済に配慮した活動を行なうことで社会全体を長期的に持続させていこうという"サステナビリティ"の考え方により、

「次代とつながり次代を創る事業」を展開しています。

この「RYOBISION 2026」では、両備グループの「8つの新・3カ年経営ミッション」に照らして、

両備グループのサステナビリティの取り組みをご紹介します。

CONTENTS

02 両備グループ経営理念・経営方針・グループ全体概要

03 両備グループのあゆみ

04 松田CSO・三宅COOメッセージ

05 8つの新・3カ年経営ミッション

06 RYOBITREE

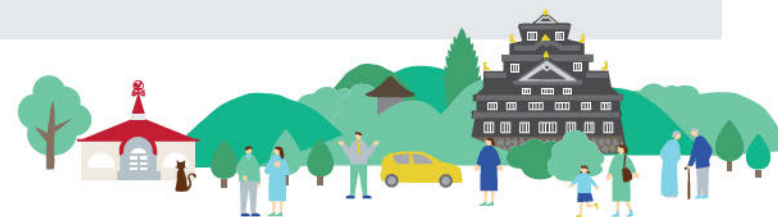
07 with Customers お客様とともに

13 with Employees 働く仲間とともに

17 with Society 社会とともに

27 with Next Generation 次の世代とともに

33 両備グループ組織図



経営理念

忠恕

真心からの思いやり

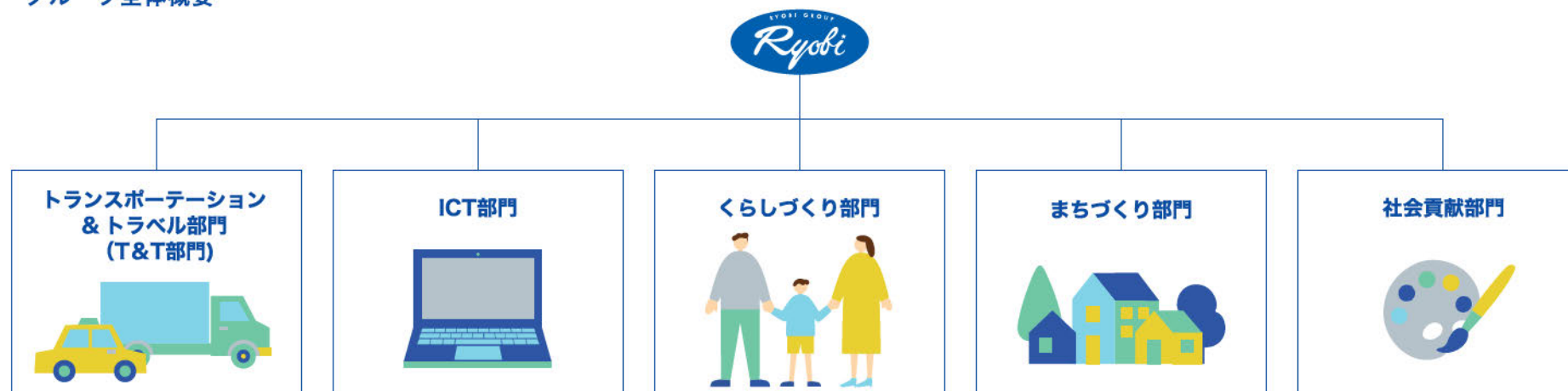
経営方針

一、社会正義 一、お客様第一 一、社員の幸せ

忠恕(ちゅうじょ)は、100有余年の両備グループの歴史の中で脈々と受け継がれてきた創業者の思いです。真心からの思いやりを意味し、すべての社員が仕事をする上での指針としています。そしてこの忠恕を、社会、お客様、社員への

3方向に展開したもの、つまり、社会への思いやりとして「社会正義」、お客様への思いやりとして「お客様第一」、社員への思いやりとして「社員の幸せ」、を経営方針としています。

グループ全体概要



社数	約50社
従業員数	約9,000人
売上高	2,229億円(2026年3月期)
経常利益	154億円(2026年3月期)

1910年



西大寺軌道(株)として創立
のちの西大寺鐵道(株)

1911年

西大寺鐵道として
運行開始

1927年

バス事業へ参入
岡山市街乗合自動車(株)設立
のちに岡山バス(株)

1936年

両備バス(株)設立

1954年

両備バス(株)と
岡山バス(株)が合併

1955年

西大寺鐵道(株)と
子会社の両備バス(株)が合併
新社名を両備バス(株)に

1962年

西大寺鐵道閉業
52年の歴史に幕



グループシナジー発揮の時代へ

両備健康づくりセンターを開設しグループ全体で社員の健康づくりに注力し始めたことを皮切りに、グループ総務委員会などの横断組織も順次立ち上がる。グループ共通の経営方針も制定されグループシナジーを発揮できる土壌が急速に整う。またこの頃からM&Aによる事業拡大も進む。

1999年

小嶋光信が
両備グループ代表に就任



事業の多角化が加速

60～70年代にかけて夢二郷土美術館、両備ストア、リョービツアーズ、両備フーズ(現:サルボ両備)などが誕生。80年代には両備タクシーセンター、複合型ショッピングセンターなどの事業や教育制度が充実。瀬戸大橋時代に入り高速バスや岡山—小豆島航路も新造船就航ですますの繁栄。90年代に入り、高速バスは東京乗り入れ、両備ストアも店舗大型化、ホテル事業参入、ICTの子会社設立などさまざまな挑戦をしていく。

1965年

情報産業へ参入
岡山電子計算センター設立
のちの(株)両備システムズ



バス事業が本格化

創立115周年—2025年

「R(アール)ちゃん」誕生—2024年



2007年

両備ホールディングス(株)誕生
両備バス(株)と両備運輸(株)が合併

2008年

両備グループ
東京事務所開設
初代所長・松田敏之

事業の広域化が加速

東京事務所を拠点に関東圏マーケットに進出。M&Aにより、交通運輸業を中心に事業領域の拡大が進む。

2012年

両備トランスポートが
ベトナムへ進出

2019年

両備システムズが
ラオスに現地法人設立

成長著しい東南アジアに進出

トランスポート事業ではベトナムやミャンマーなどで現地法人設立や大型物流拠点の開設を進め、最新鋭のコールドチェーンや国際物流ネットワークの構築を目指す。ICT分野でもその技術力が認められ現地ニーズに応えるソリューションを提供している。

2020年

創立110周年



新時代の事業創造

社員の夢、ボトムアップでの事業創造に向かう。「杜の街グレース」など新たな都市開発や、ICT・物流・ウェルネス分野への進出を加速。グループ再編やDX推進、サステナビリティ経営を通じて、地域社会とともに持続的な成長と価値創造に挑戦している。



2026年



両備グループは1910年の創立以来、地域の皆様に支えられ、ともに歩みを重ねてきました。2025年に創立115周年を迎え、次の時代に向けたタグラインとして「想像もつかない世界へ」を掲げています。これは、地域とともに培ってきた価値を大切にしながら、未知の未来に挑み続けていくという強い決意の表明です。

この節目に経営体制を見直し、私はグループの中長期戦略を担うCSOとして新たな役割を担っています。体制変更の目的は、役割と責任を明確にし、ヒエラルキーをできる限り取り払うことで、一人ひとりが自ら考え、決断し、行動するボトムアップ型経営を実現することにあります。2026年は、この考え方を理念にとどめず、日々の行動や意思決定、そして成果へとつなげていく一年にしたいと考えています。

これまで両備グループは、地域の皆様の暮らしを支える事業を通じて、地域社会の基盤守ることに注力してきました。その歩みを支えてくださった皆様への感謝を胸に、これからは「地域を支える企業」から「地域を変える企業」へと進化していくことを目指します。人口減少や高齢化といった課題を自分ごととして捉え、地域の未来を描き直すことが、私たちの次の使命です。

その原動力となるのが、社員一人ひとりの夢や目標です。社員の挑戦の積み重ねが企業を成長させ、その成長が地域の未来を少しずつ形づくっていく。私たちは、その変化のプロセスを地域の皆様と共有しながら、「想像もつかない世界」への歩みを進めてまいります。

両備グループ CSO (Chief Strategy Officer)

松田 敏之 Toshiyuki Matsuda



両備グループはこの先の100年も地域の皆様の生活を支え、社会全体を持続させていくことを目指し、様々な事業運営を行ない、より良いサービスを提供してまいります。

その根底になくてはならない考え方が、「社会正義」「お客様第一」「社員の幸せ」という経営方針です。なかでも、法令遵守にとどまらず、社会として正しいことを主体的に実践する「社会正義」を起点に据えることが、私たちの基本姿勢です。そのうえで、お客様からの信頼を積み重ね、最終的に社員一人ひとりの健康や成長、夢の実現につなげていく。この順序こそが、企業としての持続性を支える重要な考え方であると捉えています。

両備グループ COO (Chief Operating Officer)

三宅 健夫 Takeo Miyake

こうした理念を実践していくために、経験や勘だけに頼るのではなく、データと事実に基づく対話と意思決定を日々の仕事に根づかせるとともに、未来をともに創っていく仲間づくりとして採用の強化にも取り組んでいます。さらに、DXやAIを経営の基盤として積極的に実装し、人が担う仕事の価値を高め、より質の高いサービスの提供へとつなげていきます。

不確実性の高い時代だからこそ、一人ひとりの挑戦や創意工夫がこれまで以上に重要になります。私たちは、その力を結集しながら、社会に必要とされ続ける企業グループであり続けるため、新たな価値の創造に取り組んでまいります。



8つの新・3カ年経営ミッション

- 1 日本一の安全・安心と内外へのホスピタリティの追求
- 2 人軸経営の徹底・社員満足の追求と多様な人財の育成と活用
- 3 グループシナジーと生産性向上
- 4 地方創生とサステナブルな社会の実現への貢献
- 5 顧客中心の価値創造
- 6 デジタル人財の育成と次世代リーダーシップの強化
- 7 国内外市場での成長戦略と地域密着の両立
- 8 次代に合わせたビジネスモデルの変革

RYOBITREE

ミッション同士のつながり



Think Life and the Earth, Think Setouchi

地域とともに成長し、想像もつかないより良い未来を創り出す

心豊かな未来へ

RYOBISION
RYOBITREE

地域を想い、地域から国内外へ
社会全体をより良くする

with Society

- 4 地方創生とサステナブルな社会の実現への貢献
- 7 国内外市場での成長戦略と地域密着の両立

グループシナジー・DXで
次代に合わせたビジネスを創る

with Next Generation

- 3 グループシナジーと生産性向上
- 8 次代に合わせたビジネスモデルの変革

お客様に両備ならではの
安心感と感動をお届けする

with Customers

- 1 日本一の安全・安心と内外へのホスピタリティの追求
- 5 顧客中心の価値創造

社員一人ひとりが輝ける
会社づくりに取り組む

with Employees

- 2 人軸経営の徹底・社員満足の追求と多様な人財の育成と活用
- 6 デジタル人財の育成と次世代リーダーシップの強化





「ご安全に！」このひと言が共通の合言葉である両備グループは、お客様に絶対的な安全性を提供することを最優先に考えています。交通運輸部門の安全維持はもちろん、すべてのサービスや商品においても同様です。また、お客様一人ひとりの声を大切に、その期待を超えるホスピタリティを追求することで、両備グループならではの安心感と感動をお届けすることをお約束します。

グループ全体での安全・安心

| グループ横断 |

両備グループCS委員会

両備グループは、公共交通や店舗、飲食、ガソリンスタンドなど多くの接客事業を展開しており、お客様満足のために高いホスピタリティを重視しています。その一環として、CS(顧客満足)委員会を設けてお客様からの声(お褒め・お叱り)を毎月共有し、特にお叱りについては深刻度に応じて4段階に分類し、改善策を協議しています。

| グループ横断 |

両備グループSSP-UP技能コンテスト

両備グループでは、1983年から毎年、バス、トラック、フォークリフト、タクシー、鉄軌道、フェリー、整備、事務の8部門で技能・技術・サービスを競う「SSP-UP技能コンテスト」を開催し、安全意識と技術力の向上を図っています。SSP-UPとは、安全(Safety・Security)、サービス(Service)、生産性(Productivity)の向上を目指す全社的な取り組みです。この全体コンテストに加え、グループ各社でも独自の安全強化活動を展開。例えば両備トランスポートカンパニーでは支店ごとの安全大会、両備テクノモビリティカンパニーでは整備技術コンテストを通じて現場力を強化。ICT部門では、過去の障害事例の分析と再発防止策の共有を通じて、品質意識と技術力の向上に取り組んでいます。



| グループ横断 |

コンプライアンス体制強化

両備グループでは、法令や社会情勢の変化に対応するため、法務リスクマネジメント部が中心となり、定期的なメルマガ「法務通信」による情報発信や各種研修、研修動画の配信などを行っています。従業員が安心して働ける環境づくりにも力を入れ、法令順守を超えた「社会正義」の実現を目指して、コンプライアンス体制の強化に取り組んでいます。



交通運輸事業の安全・安心

No.1



| グループ横断 |

両備グループ交通運輸事業安全マネジメント

両備グループ安全マネジメント委員会を中心に、労使協調のもと、より現場に密着した効果的な活動を展開し、目標である「日本一安全な運輸企業」を目指しています。

両備グループ安全宣言

社会正義の経営方針に則り、交通運輸各社は、「運輸安全マネジメント」に基づき、「安全」を最優先とし、「日本一安全な運輸企業」を目指して頑張ることを宣言します。

両備グループ安全方針

1. 安全運転(運航)を第一とし、法令遵守し、基本に忠実に日々業務を遂行すること。
2. 車両(船舶)の整備を的確に行ない、日常点検を厳正に行なうこと。
3. 点呼において、日々安全への啓蒙、関心を高めること。
4. 教育を通じて安全意識を常に涵養すること。
5. 万が一重大事故の場合、人命尊重を第一に対処し、速やかに上司、関係機関への連絡をとること。

| T&T部門(バス・鉄軌道事業各社) |



ユニット横断の安全・CS徹底体制

バス・鉄軌道ユニットでは、2025年12月にユニット横断組織として「安全・品質管理統括部」を設立し、グループ全体の安全水準およびサービス品質の持続的向上に向けた取り組みを推進しています。同統括部では、以下の施策を柱として、運輸安全マネジメントの高度化と人材育成基盤の強化に取り組んでいます。

- ① 新人乗務担当社員の初期教育プログラムの共通化
- ② ユニット各社における安全に関する「基準」の言語化・平準化
- ③ 指導運転者および運行管理者の計画的な育成
- ④ 乗務担当社員の安全意識およびCSレベルの底上げ

両備グループでは、「安全最優先」の方針を事業活動の根幹と位置付けています。乗務担当社員一人ひとりの技能・意識の向上に加え、指導・管理を担う人材育成にも重点を置くことで、教育の質と実効性を高め、グループ全体で統一された教育基準の整備と安全文化の醸成を図っています。

これらの取り組みを通じて、持続可能な公共交通の提供と、安心・信頼される輸送サービスの実現に貢献していきます。

Mission

1 日本一の安全・安心と内外へのホスピタリティの追求

5 顧客中心の価値創造

| T&T部門 |

事故防止のための安全な車両導入

両備グループの交通運輸各社では、定期的に安全性能の高い新型の車両や設備への代替を行なっています。

高速バス

安全・安心のために衝突被害軽減ブレーキなど安全装備がった車両を2030年までに100%導入予定

Rちゃんバス(路線バス)

AI機能搭載車内ミラーや衝撃吸収床材搭載

スカニア2階建て貸切バス

- ・車間距離保持機能付クルーズコントロール
- ・衝突被害軽減ブレーキ
- ・車線逸脱警報装置
- ・電子制御式安定走行プログラム
- ・リターダー

スカニアトラック

- ・車間距離保持機能付クルーズコントロール
- ・衝突被害軽減ブレーキ
- ・車線逸脱警報装置
- ・調節式エアサスペンションシート
- ・リターダー

貸切バス

- ・巻き込み事故警報装置
- ・ドライバー異常時検知システム

タクシー(全車共通)

- ・衝突被害軽減ブレーキ
- ・踏み間違い衝突防止アシスト(誤発進抑制)
- ・車線逸脱警報機能

JPN TAXI

- ・視界拡張型フェンダーミラー

上級車種(アリア/アルフォード)

- ・全周囲モニター・死角検知システム(アラウンドビュー/ブラインドスポット)
- ・先進運転支援システム(プロパイロット/レーダークルーズコントロール)

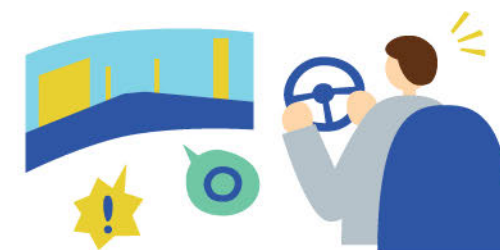


| T&T部門 |

New!

ドライビングシミュレーターの導入

両備グループの交通運輸各社では、ドライバーの教育と事故防止の強化、運転能力の客観的な評価のため、最新の「ドライビングシミュレーター」を導入しました。実車に近い環境での危険予測体験にとどまらず、反応速度や視野の測定、個別データの経年変化までを数値化して管理できるのが大きな特徴です。今後は蓄積したデータをグループ全体で共有・活用し、さらなる安全意識と運転技術の向上を図ってまいります。



| T&T部門(バス・鉄道事業各社) |

整備履歴のデジタル管理

両備グループのバス会社では、安全・安心な運行のために整備履歴をデジタル管理し、傾向分析によって異常の兆候を早期に把握。計画的な点検・整備で突発的な故障を防ぐなど、日々整備管理の高度化に取り組んでいます。



| T&T部門(両備トランスポート)・くらしづくり部門(両備テクノモビリティ) |

VR技術を導入した安全教育

両備グループはVR技術を活用した安全教育を推進。両備トランスポートカンパニーはKYT(危険予知トレーニング訓練)で実践的な安全意識を強化し、両備テクノモビリティカンパニーは整備士向けにVR研修や3Dマニュアル導入を計画。技術革新で教育と技能向上を目指しています。



| T&T部門 |

クラウド型ドライブレコーダー導入

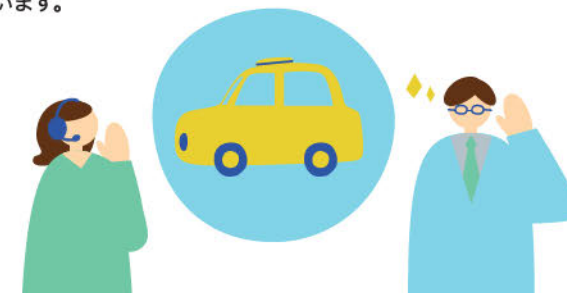
両備グループのバス・タクシー会社はクラウド型ドライブレコーダーを導入し、運転状況をリアルタイムで把握。事故対応や健康管理に活用し、安全運転スコアによる教育も推進。DXを通じて安全・安心な輸送と業務効率化を目指しています。



| T&T部門(両備タクシーセンター) |

電話応対向上&配車ミス防止チームの活動

両備タクシーセンターでは、毎日約4,200件もの配車依頼があり、電話応対と配車ミス防止のため専門チームを設立。応対力向上を通じてミス削減を図り、個別支援や面談、図解による情報共有で安心・正確なサービス提供を目指しています。



01 安全・安心・セキュリティの徹底

セキュリティ強化

| グループ横断 |

セキュリティ・品質・マネジメント体制の強化

両備グループはサイバー攻撃対策として「情報セキュリティ委員会」を設置し、グループ全体で問題共有と対策を協議。ここ1年は特に、ランサムウェア被害・データ流出などのトラブルを防止するため、全社対象のフィッシングメール訓練を複数回実施するなど、社員のセキュリティ意識向上に重点を置いています。

両備システムズでは目的別の専門組織を立ち上げ、情報資産保護に取り組んでいます。

- 全社的なセキュリティ・品質強化を目的に、役員室直轄のガバナンス統括室内に「セキュリティガバナンス推進室」と「品質マネジメント室」を設置
- 重大セキュリティインシデント発生時の迅速な対応を目的に、「Ryobi-Sirt(セキュリティインシデント対応チーム)」を構築し、実践的な疑似訓練を通じて対応フローの検証と改善を実施
- サイバー攻撃対策として、全社的な教育と重要情報資産の適切な管理を推進
- 契約金額が一定以上の大規模プロジェクトを担当部署だけでなく全社横断で監視・統制実施例)プロジェクト計画時・月1回の進捗状況に対し全社横断レビュー実施
- 常時監視による早期検知と迅速な対応を目的に、特定のお客様向けに24時間365日のセキュリティ・オペレーション・センターを提供

| ICT部門(両備システムズ) |

ISMAP取得

クラウドサービスの利用拡大に伴い、両備システムズは高水準のセキュリティを証明するため、政府調達基準の「ISMAP」認証を2025年6月に取得し、毎年更新をしています。同等のセキュリティで自治体や民間にも安心してサービスを提供できる体制を整えています。

※ISMAP(イスマップ)とは、日本政府が利用するクラウドサービスが、国のセキュリティ基準を満たしているかを評価し、登録する制度です。政府が安心してクラウドを導入できるようにし、信頼性の高いサービス選定を支援します。登録サービスは政府調達の基本となり、民間でも選定の参考になります。

| ICT部門(両備システムズ) |

多要素認証「ARCACLAVIS Ways(アルカクラヴィス ウェイズ)」

近年、医療機関を狙ったサイバー攻撃が増加傾向にあります。医療分野の情報セキュリティ強化として、システムを利用する端末の本人認証ソリューション「ARCACLAVIS シリーズ」を提供しています。本ソリューションは高い安全性を備えながら小規模な診療所や薬局などでも導入しやすいため、安心して医療を受けられる環境づくりを目指しています。

ARCACLAVIS Ways



食の安全・安心

| くらしづくり部門(サルボ両備・両備ストア) |

QSCHの確立(クオリティ・サービス・クリーンリネス・ホスピタリティ)

両備グループで食に関わる事業を行なうサルボ両備と両備ストアカンパニーは共同でホスピタリティ研修を行ない、満足度の高い店舗づくりを推進。品質・サービス・清潔さ・おもてなしを重視し、専門清掃や接客研修、店舗ごとの接客ルールで快適な環境と心地よい時間を提供しています。さらに、サルボ両備では、2026年より、店舗スタッフ向けに「スターバッジ制度」を導入予定。一人ひとりの接客スキルの見える化と評価を通じて、スタッフの成長とお客様満足度の向上を目指します。



| グループ横断 |

水耕栽培野菜「Ortolano(オルトラノ)」

両備グループのオリジナルブランド野菜「Ortolano」は、口に入れるものだからこそ丁寧に育てたいとの思いから生まれた水耕栽培野菜です。農薬を使わず衛生的に育てるため洗わずに食べられ、味と香りが評価され進物用サラダや航空機ファーストクラスの機内食にも採用。2025年には倉敷グリーン・パークへ拠点を移し露地栽培も開始。農福連携を推進する両備アグリウェルネスを設立し、障がいのある方が活躍できる場をつくり、持続可能な事業へ発展しています。



| くらしづくり部門(両備エネシス) |

島根のおいしい天然水「enamis(エナミス)」

島根県金城町の地下水を使用した「enamis」は、加熱殺菌なしの希少な天然水で、赤ちゃんにも安心なミネラル豊富なアルカリイオン水。美容や健康にも良く、両備エネシスが宅配ウォーターサーバーやペットボトルで販売しています。



02 「もしものとき」のまちづくり

地域の暮らしの安全・安心

「まちづくり部門（両備ウェルネス）」

衛生管理を追求した清掃サービスの提供

障がいのある方の活躍の場である特例子会社・両備ウェルネスの清掃サービスは、カーペット専用のアップライト掃除機など、最新の清掃器具と人体に無害な洗剤を用い、手術室レベルの衛生管理を実施。紫外線ライトやATP検査で清掃後の衛生状態を数値化し、「まな板以上」の基準で雑菌残留度を月1回抜き打ち検査。安全・安心な環境づくりに努めています。



「くらしづくり部門（岡山三菱ふそう自動車販売）」

地域の交通安全への取り組み

岡山三菱ふそう自動車販売では、安全意識向上のため交通ルール啓発ステッカーや蛍光バンドを配布し、地域と連携した事故防止活動を展開。春の交通安全コンテストでは5年連続で受賞し、安全・安心な社会づくりに貢献しています。



「くらしづくり部門（両備ヘルシーケア）」

貴重品保管庫の設置

両備ヘルシーケアの住宅型有料老人ホームでは、貴重品の管理がご自身では難しくなってきたご入居者のために、施設共用部に「貴重品保管スペース」を設置しました。施錠され、防犯カメラが取り付けられたスペースで管理することで、貴重品を安全・安心に保管いただくことができます。



建築の安全・安心

「まちづくり部門（両備ホームズ）」

地震に強い安全・安心の住まい

両備ホームズでは、最新の耐震技術「JSPAC耐震工法」を活用し、地震に強い安心の住まいを提供しています。鋼板と繊維シートを組み合わせた独自の柱巻き工法により、安全性と耐久性を高めるとともに、施工中も居住可能で意匠への影響も少ないのが特長です。これにより、地震による建物の損傷を抑え、大切な住まいや財産を長期的に守ることで、安心して暮らせる快適な住環境を実現します。



「くらしづくり部門（礎コラム）」

「ゼロ災害」モデルの徹底

礎コラムでは、「ゼロ災害」を目指し、安全委員会の設置や定期的な安全パトロール、品質検査の徹底を実施。改善点は即時反映し、全体で安全意識を高めています。社員一人ひとりが「安全はすべてに優先する」意識を持ち、継続的に安全管理を推進しています。

「くらしづくり部門（礎コラム）」

BIMの技術取得によるリスク可視化

礎コラムでは、建築の安全性と品質向上のため、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）技術の習得を推進。設計段階からリスクを可視化できる「Autodesk Revit（オートデスク レビット）」という専門ソフトを導入し、3Dモデルで情報を一元管理。より高品質な建築提供に向けた体制強化を進めています。



もしものための取り組み

「グループ横断」

大規模災害時の自治体との連携

両備グループでは、行政との協力と自主的な取り組みの両面から、災害時における地域と人々の安全を守る体制を構築しています。まず、岡山市と締結した「災害発生時における協力協定」では、バス・タクシー・フェリー・石油・介護など多岐にわたる事業を一体として活用し、災害対応を支える枠組みを整えています。このように民間企業グループ全体が包括的に参画する協定は全国的にも極めて珍しいものです。



協力内容の一例

- バス・タクシー・フェリーを利用した避難所等への被災者・支援者の搬送
- フェリーを利用した支援物資等の搬送（カウンターパートナー制を採用している高松市が被災した場合）
- 両備グループ運営のサービスステーションを活用した一時避難場所の提供および燃料供給
- 大規模災害時における避難所での人的支援（ヘルパー派遣）および事業所の避難所指定

「くらしづくり部門（両備エネシス）」

地域の防災拠点としてのサービスステーション活用

両備エネシスは、ガソリンスタンド23店舗に緊急発電機を配備し、停電時も約7時間連続して、給油機を稼働させ、緊急車両や一般車両へ燃料を途切れさせず提供が可能です。また、ガソリンスタンドは不燃構造のため、延焼のリスクが低く安全な一時避難場所としても活用可能です。災害時も速やかに営業を再開し地域復興に貢献できます。また、地域の防災意識の向上を目的に、各サービスステーションに防災コーナーを設置し、飲料水や非常食、防災用品を展示して備蓄の重要性を啓発しています。2026年8月現在、防災士資格を有する社員は53名にのぼります。また地域との連携による支援活動を円滑に行なえるよう定期的に防災訓練を実施しています。



02 「もしものとき」のまちづくり

もしものための取り組み

| T&T部門（フェリー事業各社） |

災害時の安全確保に「マル緊BOX」活用

フェリー各社では、万が一の災害時や緊急事態に備え、お客様と従業員の安全を守る初動対応セット「マル緊BOX」を各拠点に配置しています。このBOXには、緊急時の行動を時系列に沿って分かりやすく示したカード類が収められており、「トイレに閉じ込められている方がいないかの確認」といった具体的なチェック項目を順を追って確認できるようになっています。混乱の中でも、誰もが迷わず動けるよう設計されており、いざという時にも迅速かつ確実な対応を可能にします。

| T&T部門 |

普通救命講習の受講

お客様や地域の方のもしもの時に迅速に対応できるよう、バス・タクシー乗務担当社員に普通救命講習の受講を積極的に推進しています。救命措置の知識と技術を身につけ、お客様と地域の安全・安心に寄与する存在を目指しています。

| グループ横断 |

BCP訓練

両備グループでは、公共交通事業を中心に災害発生時を想定したBCP訓練を継続的に実施しています。机上訓練と実地訓練を組み合わせることで、現場で実際に機能する対応力を確認し、お客様と社員を守る体制づくりを進めています。訓練を通じて得られた知見はマニュアルに反映し、グループでの共有・展開を図っています。※BCP: Business Continuity Planの略。災害や緊急事態における企業の事業継続計画のこと。

| ICT部門（両備システムズ） |

災害時の情報共有に「i-Blend(アイブレンド)」

両備システムズは、住民生活総合支援アプリ「i-Blend」を提供しています。住民への新たな広報手段として従来のホームページなどのプル型の情報発信ではなく、プッシュ型の積極的な情報配信を行なうアプリサービスです。タイムリーに災害時の情報共有などが可能になります。

| ICT部門（両備システムズ） |

情報の安全を守るデータセンター「Ryobi-IDC」

自然災害が少なく交通の便にも優れた立地条件の良い岡山に、災害に強く絶大な信頼を誇るデータセンターを設置。最新のファシリティ、厳重なセキュリティ、安定した電力供給、フレキシブルなサーバールームを特長としています。多様なネットワークとハイブリッド構成が可能な各種クラウドサービスも取り揃え、インフラ構築からハードウェア保守、システム運用まで、一貫したサポートを提供し、お客様やパートナー企業のビジネスを支えています。



| くらじづくり部門（両備テクノモビリティ） |

防災トレーラーの開発・販売推進

両備テクノモビリティカンパニーでは、災害時に迅速な支援を可能にする防災トレーラーの企画・展開に取り組んでいます。すでに、断水時などに対応できる環境配慮型トイレを中心に、給水タンクや発電機、冷暖房設備、テーブル・イスを備えた移動型トレーラーとして防災用途での納入実績があり、今後は簡易住居スペースなどの機能拡張も視野に入れて検討を進めていきます。ニーズに応じた柔軟な構成により、非常時の生活基盤支援に貢献することを目指しています。



03 使いたくなる公共交通

ハードの進化

| T&T部門（バス事業各社） |

すべてのお客様に優しい車両への切り替え

両備グループでは、ノンステップやバリアフリー対応バスを導入し、誰もが利用しやすい環境整備を進めています。貸切タイプの車両を従来から使用しており、車いすのお客様などのご利用が難しかった空港リムジンバス路線にも、2025年3月にエレベータ付バスを導入。また、貸切バスでもスカニア2階建てバス（ノンステップバス）を導入して、バリアフリー化を進め、どなたでも安心して乗降できるよう努めています。



| T&T部門（フェリー事業各社） |

旅客ターミナルのバリア解消による旅行者への安心提供

フェリー各港施設において、段差の解消や自動扉の採用等のバリアフリー化や、サインやインフォメーションの多言語対応による外国人利用客の利便性向上などを進めており、どなたでも利用しやすい施設づくりを目指しています。



| T&T部門（岡山交通・岡山両備タクシー） |

QR注文「ココベル」

QRコードを読み取るだけで簡単に配車依頼ができるサービス「ココベル」を2025年2月に開始。2026年3月時点で導入店舗は累計500カ所を突破し、2026年中には1,500カ所への設置を目指しています。店舗・施設でのタクシー呼び出しをよりスムーズにし、地域の移動利便性向上に貢献しています。



| T&T部門・ICT部門（両備システムズ） |

バスロケサービス「Bus-Vision（バスビジョン）」の改良

バスロケーションサービス「Bus-Vision」は、スマートフォンやパソコンでバスの位置や到着時刻を簡単に確認できる利便性が向上しました。改良により位置情報や遅延状況などの詳細情報提供が可能になり、スムーズな利用を支援しています。今後もさらなるサービス向上を目指します。



| T&T部門（バス事業各社） |

路線バス・高速バスの多言語対応

両備グループでは、訪日外国人や地域在住の外国人が安心して利用できるよう、路線バスや高速バスの多言語対応を強化しています。英語の車内アナウンスや表示、タブレット端末での多言語案内、バスロケーションシステムの多言語化により、移動時の不安軽減を図っています。



| T&T部門（神戸ベイクルーズ） |

QRコード乗船

神戸ベイクルーズでは、ゴールデンウィークなどの混雑する時期に、QRコードでの乗船受付を行なっています。今後は体制を整え、通常時にもこの仕組みを導入することで、お客様がスムーズに乗船できるようにし、運航管理の効率も高めていく予定です。



| T&T部門（両備タクシーセンター） |

健康や豊かな暮らしをサポートするタクシーサービス

両備タクシーセンターでは、地域住民の健康と暮らしを支える多様なサービスを展開しています。妊婦向けの「このとりタクシー」、お子様専用の「おこさまタクシー」、利用状況を家族に知らせる「みまもり通知タクシー」、買い物を代行する「おつかいタクシー」など、多彩なタクシーサービスで日々の安心をサポートしています。



| T&T部門（両備タクシーセンター） |

自社アプリ「TAXI.com（タクシードットカム）」

タクシー配車アプリ「TAXI.com」は、地域の生活に合わせて使いやすく進化できるアプリを目指し、両備グループのタクシー事業者と両備システムズ、およびJVCケンウッド様が共同で独自開発したものです。2022年の提供開始以来、事前予約やキャッシュレス決済などの機能を段階的に拡充し、2026年7月には累計13万を超えるダウンロードを達成。地域の移動ニーズに応えながら、誰もが使いやすい交通サービスとして進化を続けています。

アプリでタクシーをもっと便利に

TAXI.com

タクシードットカム



※「QRコード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

| T&T部門（岡山交通） |

ユニバーサルマナーの体得

岡山交通では、すべてのお客様が安心して利用できるよう、乗務担当社員に対して「ユニバーサルマナー検定3級」の受講を推進しています。高齢者や障害者への理解を深め、声かけや車いす介助など実践的スキルを習得し、正しい知識と思いやりのある対応で移動支援社会の実現を目指しています。

| T&T部門（タクシー事業各社） |

ホスピタリティ接客研修の受講

両備グループのタクシー会社では、お客様により快適で心地よい時間をお過ごしいただけるよう、乗務担当社員を対象としたホスピタリティ接客研修を実施しています。言葉づかいや立ち居振る舞い、気配り・心配りなど、日々の接客に活かせるスキルを学ぶことで、満足度の高い移動空間づくりに取り組んでいます。



| T&T部門（両備スカイサービス） |

出発便における航空機お見送りの実施

両備スカイサービスカンパニーでは、お客様に思い出に残る体験を提供するため、横断幕を掲げた季節感のあるお見送りを実施しています。お客様に喜んでいただけることが社員のモチベーション向上にもつながっています。





両備グループは「社員の幸せ」を経営方針のひとつに掲げ、社員とその家族が安心して暮らせる環境づくりに全力を注いでいます。社員一人ひとりの夢や強みを大切に、スキルアップを支援することで、充実したキャリアを築けるようサポートしています。特に、デジタル人材や次世代リーダーの育成に力を入れ、未来を担う人材の成長を後押ししています。社員の幸せこそが、両備グループの未来を創ると信じています。

Mission

2 人軸経営の徹底・社員満足の追求と多様な人材の育成と活用

6 デジタル人材の育成と次世代リーダーシップの強化

01 社員の幸せ = 健康 × 能力 × やる気 + 夢

健康

| 社会貢献部門（両備健康づくりセンター） |

両備健康づくりセンターを中心とした社員の健康サポート

両備健康づくりセンターでは、「健康管理」「健康増進」「福利厚生」の3本柱を軸に、社員一人ひとりの健康を総合的に支援しています。健康管理の分野では、健康診断費用助成により社員負担を大幅に軽減した健診受診制度を整備するとともに、体力測定などを行なう「QOL健診」を実施しています。さらに、メタボ予備軍を対象とした減量支援プログラム「健康塾」や、若年層の意識改革・行動変容を促す「元気塾」、ウォーキングキャンペーンなど、多面的な健康増進施策を展開しています。メンタルヘルス対策にも注力しており、マインドフルネスの導入に加え、専門スタッフによる職場訪問や事業所での健康相談を実施。あわせて、受動喫煙防止や禁煙支援にも積極的に取り組んでいます。こうした取り組みを通じて、グループ各社は「健康経営優良法人」に認定されており、働きやすい職場環境づくりと社会的価値の向上に貢献しています。

| くらしづくり部門（サルボ両備） |

健康になれる社員食堂

サルボ両備が運営する杜の街グレースオフィスクエア内「ピクニックテラス」では、日清食品様開発の分子栄養学に基づく「おいしい完全メシ」を提供。緑豊かな開放的空間で心身をリラックスさせながら、誰もが利用できる健康志向のカフェテリアを目指しています。また社員食堂としても機能し、栄養面から社員の健康維持を支援しています。



能力

| 社会貢献部門（HTC） |

サクセッションプラン

サクセッションプランとは、会社の重要なポジションである経営人財の後継者を見つけて育てるためのプログラムです。登用に値する人材を早期に見つけて育てることを目的としており、属人的対応から脱却し、構造的・透明性のある選抜プロセスを実現します。

NEXT人材：2-3年後の経営幹部候補（52歳未満）

FUTURE人材：将来のNEXT人材候補（40歳未満）

上記2つに分けて育成する制度で、2026年度よりスタートしています。

| グループ横断 |

JB制度（JB=Junior Board:青年重役会）

「両備JB（ジュニアボード）制度」は、両備グループの中堅社員が自らの視点でグループの未来を構想し、提言する制度です。約1年にわたり、新規事業の立案に加え、同業他社や異業種への視察、さらには海外での先進事例の吸収など、現場を飛び出して学びと挑戦を重ねます。視野を広げたうえで練り上げた提案は、経営トップへ直接答申され、実際の事業や改革の種として活用されることも。グループの未来を担う人材が、自らの想いとアイデアをカタチにできる、実践型の成長機会です。同時に、次代の経営幹部育成を目的としたサクセッションプランの重要な要素にもなっています。

NEW!



| 社会貢献部門（HTC） |

ヒューマントレジャーセンターによる研修プログラム

両備グループヒューマントレジャーセンター（HTC）は、グループ全社員を対象に階層別の一貫教育を行ない、生産性の向上や付加価値の高い仕事へのシフトを支援しています。経営理念である「忠恕（真心からの思いやり）」ブランド推進を目指し、「経営管理基礎講座（通称：両備大学）」やDX推進人材育成研修など、年間約40種の講座を計画的に展開。なかでもアンダー30・アンダー25活動といった若手社員向けの研修では、コミュニケーション力やリーダーシップを育み、仲間との協働による成功体験から学ぶことで、次世代の経営幹部候補を育成するサクセッションプランにもつなげています。



| グループ横断 |

社員一人ひとりのキャリア形成支援

両備グループでは、社員のキャリア形成を支援するため「キャリアライフ支援室」を設置し、秘密厳守のもとキャリアコンサルタントによる面談を実施しています。さらに、年1回の異動希望調査やグループ内公募制度を通じ、両備グループの多様な業種を活かした柔軟なキャリア選択が可能な体制を整えています。

| T&T（両備スカイサービス） |

他空港への見学・研修の推進

岡山桃太郎空港の地上業務を受託している両備スカイサービスカンパニーでは、視察や実際の業務経験による人材育成、また好事例の内部署への波及を目的に、他空港への見学・研修を推進しています。

2025年度実績

8空港へ30名の見学・研修参加
那覇空港6名・熊本空港2名・高知空港2名・中部空港3名・小松空港5名・新潟空港6名・成田空港1名・根室中標津空港5名



| グループ横断 |

エンゲージメント向上につながる表彰制度

両備グループアワードは、両備グループにおける最高峰の表彰制度であり、社員やチームの卓越した業績や貢献を称える場です。企業理念「忠恕(ちゅうじょ)」に基づき、社会正義・お客様第一・社員の幸せを実践し、持続可能な発展に寄与した個人やチームに贈られます。

表彰は、各事業をけん引した個人やプロジェクトに贈られる「トップランナー賞」、年度を通じて顕著な功績をあげた会社に贈られる「企業大賞」などで構成されており、社員の努力や成果を正当に評価することで、エンゲージメントの向上と組織への誇りの醸成につながっています。また、各事業部門や事業ユニットの表彰制度においてトップカテゴリーを受賞した社員もこの場に招待され、グループ最高峰の場にふさわしい盛大なパーティ会場で祝福されます。

部門・ユニット表彰例

- 無事故・無違反表彰(交通運輸事業各社)
連続達成年数に応じて褒賞がアップし、安全意識と責任感の向上に寄与。
- 月間MVP表彰制度(両備タクシーセンター)
「電話取得率」「ミス件数」「顧客登録件数」に基づき、毎月上位10名を表彰。
健全な競争と公平な評価が職員の意欲と業務品質を高めています。
- RSG-Award (ICT部門)
ICT分野で優れた成果を上げた部門・会社を表彰する「RyobiAward」をはじめ、情報発信やPR活動を評価する「パブリシティ表彰」、事業成果や新規事業・重点課題への取り組みを称える「優秀プロジェクト表彰」、さらにRyobi Systems Group Wayを体現した個人・チームを表彰する「Way個人賞」「Wayチーム賞」を通じて、挑戦と成長を後押ししています。



| グループ横断 |

社員と経営層の交流会

両備グループでは、経営幹部と社員がフラットな立場で交流できる「松田さん(グループCSO)と三宅さん(グループCOO)と仲間が集う会」を3カ月ごとに開催しています。東京や広島等、岡山県外事業所の社員を対象にも実施しており、部門や世代を超えた対話を通じて、横のつながりやモチベーション向上を図っています。



| グループ横断 |

両備グループ全社対象社員満足度調査

両備グループでは年1回、全社員対象社員満足度調査を実施し、社員の声を経営に活かしています。結果は全社に共有され、各部門での改善活動に活用。技術系社員が多いなか、2025年度からは紙回答を廃止しタブレット導入で完全WEB化をしました。迅速かつ正確な意見収集が可能となることで、スピーディな職場環境や制度の改善に貢献しています。

| グループ横断 |

生き生きと働けるワークプレイス

両備グループでは、社員一人ひとりが生き生きと働ける環境づくりを重要な経営課題として位置付け、働き方改革やオフィス環境の改善をグループ一体となって継続的に推進しています。例えば杜の街グレースのオフィススクエアは、その象徴的な拠点として、開放的で部門を越えたコミュニケーションを生み出す空間となっており、多様な働き方に対応したワークスペースを備え、社員の創造性と快適性を両立させる職場環境を実現しています。



夢

| グループ横断 |

社員一人ひとりの夢の見える化と支援

両備グループでは、社員の「夢」を原動力とし、その実現を支援することで企業の成長につなげる取り組みを進めています。「夢」は社員の行動を促す力であり、進むべき道を明確にする指針でもあります。2025年度から、人事システムを活用して社員一人ひとりの夢の見える化し、組織と連動したタレントマネジメント体制を整備しています。具体的には、上司が社員の夢に対して支援方法を考える習慣づけを促すために、事務系職種の目標管理表にも「夢」の項目を追加し、面談時に進捗確認と支援ができる仕組みを導入しました。夢の内容は業務・プライベートを問わず、会社はそれぞれに応じた支援を行ないます。社員が夢に向かって意欲的に働くことで、個人の成長と企業の活力向上を両立させることを目指しています。



02 社員とご家族の生活を豊かに

メニュー数100以上の充実した福利厚生制度

| グループ横断 |

福利厚生ポータルサイト

社員とご家族が「両備グループの一員でよかった」と実感できるように、健康・生活・仕事のあらゆる面で社員のライフステージに寄り添った福利厚生制度・サービスを充実させています。これらの制度をより身近に感じていただけるよう、グループの福利厚生を集約した「両備福利厚生ポータルサイト」を設け、スマートフォンなどからご家族とともに閲覧でき、必要な情報をタイムリーかつ簡単に検索できる環境を整えています。アクセス数は13,000を超え、現在ではグループ全体の福利厚生基盤となっています。今後は、地域・職種・勤務形態に関わらず、グループ全社員が福利厚生について「自分に合った内容を知り」「迷わず利用でき」「より活用される」よう、制度と情報提供の両面から、福利厚生の進化に取り組みます。

| グループ横断 |

屋根のプロジェクト

社員が生活に困らず一生働き続けられる会社を目指して、「屋根＝住」と「お腹＝食」の福利厚生制度を強化する「屋根とお腹のプロジェクト」に取り組んでいます。「住まい」を支える取り組みとして、「住宅購入補助制度」の検討を進めています。住宅や家賃補助といった短期的な負担軽減にとどまらず、将来にわたり安心して住み続けられるよう、住宅の購入（＝資産の形成）を長期的に支援する仕組みをつくりたい—そんな想いで制度設計に取り組んでいます。

| グループ横断 |

お腹のプロジェクト

“食”を支える取り組みとして、社員限定のお米販売を2026年4月に開始しました。健康で日々の暮らしが整ってこそ仕事にも前向きに向き合える—そんな考えのもと、社員とご家族の毎日の食卓をこれからも支えていきたいという想いで取り組んでいます。グループの取引網を活かし、米事業者と協力して直近年産の国産米を用いた両備グループのオリジナル米を企画し、特別価格で毎月安定して購入いただける仕組みを提供しています。社員とご家族の皆様の生活に寄り添い、日々の暮らしに直結する支援となることを目指し、今後も福利厚生の充実に取り組んでいきます。

| まちづくり部門（和田コーポレーション） |

持家手当の支給

和田コーポレーションでは、社員の住宅取得を支援するため、本人名義の持家に居住する従業員に毎月持家手当を支給しています。この制度により社員の約60%が持家を所有しています。

| グループ横断 |

ランドセルプレゼント

小学校へ入学されるお子様がいらっしゃる社員に対して、入学祝いとして、ランドセルをプレゼントしています。ご家族からの「ありがとう」の声も多く聞かれ、贈る方も贈られる方もお互いに幸せになる仕組みです。

| グループ横断 |

全社員が平等に情報へアクセスできる環境づくり

会社からパソコンやスマートフォンなどの業務用端末が支給されていない社員にも、必要な情報が確実に届くよう、現場へのデジタルサイネージの設置や専用タブレット端末の導入を進めています。あわせて、勤務場所や職種、IT環境の違いに左右されることなく、誰もが平等に情報へアクセスできる環境整備を目指しています。

| グループ横断 |

バイ両備

「バイ両備」は、両備グループの社員がグループ内の商品やサービスを特別料金やポイント還元で利用できる制度です。旅行、スーパー、飲食、不動産など多様なサービスを通じ、社員の生活を応援する独自の福利厚生メニューとなっています。

| グループ横断 |

両備グループ部活動応援プロジェクト

両備グループでは、社員有志による20以上の部活動が展開されており、活動費の一部支援や部員募集をサポートしています。部活動は、部署を越えた社員同士の交流を促進する貴重な場として活用されています。



03 多様な人財、多様な働き方

女性活躍

NEW!

| グループ横断 |

女性のライフイベントと仕事の両立支援強化

不妊治療を検討する社員が働きやすい職場環境を目指し、休暇制度や短時間勤務制度の利用を推進しているほか、2026年度より、卵子凍結・不妊治療の費用助成制度を導入し、経済的負担を軽減する仕組みが整いました。また、従前から存在していた「生理休暇」は、より気軽に抵抗なく使えるよう「フェムケア休暇」へ名称を変更。新制度の設立と、制度を利用しやすい環境づくりを通じて、社員の心身の健康維持と多様な働き方の実現を支援しています。

| グループ横断 |

女性リーダー育成に向けた取り組み

両備グループは、企業のイノベーションとエンゲージメント向上を目指し、女性管理職の登用を推進しています。2030年までに女性管理職比率10%を目標とし、各年代に応じた育成プログラムを通じて、女性の視点と強みを活かした人材育成に取り組んでいます。

| グループ横断 |

若手女性社員育成プログラム KiraRi☆

KiraRi☆は、両備グループの20代女性社員が主体となり、感性やアイデアを活かして商品・サービスの開発や社内外のつながりを創出する活動です。グループの枠を超えた連携を促進し、社員一人ひとりの個性と可能性を引き出すことを目指しています。

| T&T部門（岡山両備タクシー） |

女性の乗務社員積極採用

岡山両備タクシーでは、全スタッフが女性のグレースタクシーカンパニーを運営し、きめ細かなサービスを提供しています。女性が働きやすい環境整備を目指し、時短勤務や週休3日制など柔軟な働き方の導入を進めています。



| グループ横断 |

ライフステージの変化に合わせた多様な働き方

両備グループでは、育児や介護と両立しながら働けるよう、正社員でありながら柔軟な勤務が可能な「フレキシブルワーク・プラン制度」を導入しています。さらに、ベビーシッター割引や保育所との提携など、多様な支援制度を整えています。



| T&T部門（両備トランスポート） |

AI自動点呼の導入による業務効率化と対話強化

両備トランスポートでは、AIを活用した自動点呼システムを導入することで、業務の効率化とともに、乗務担当社員一人ひとりの個人面談の充実に重点を置いた運用を進めています。定型業務をデジタル化することで、乗務担当社員の体調やメンタル面、業務上の不安に丁寧に向き合う時間を確保し、「人」を中心とした点呼体制を実現します。本取り組みは、すでに岡山・大阪エリアで導入済みであり、今後は順次他拠点にも展開予定です。AIと人の役割を最適に組み合わせることで、社員満足度の向上と安全・安心な職場づくりを両立し、人軸経営のさらなる深化を目指しています。

| まちづくり部門（両備ウェルネス・両備アグリウェルネス） |

障がいのある方が安心して働ける環境づくり

両備グループは、障がいのある方の就労支援を目的に、2022年に特例子会社である両備ウェルネスを設立し、清掃や施設管理などの業務を通じて働く機会を創出してきました。2025年には、その取り組みをさらに発展させる形で、農業を通じて福祉と連携する「農福連携」に着手。就労継続支援A型事業所を開設し、運営法人として両備アグリウェルネスを新たに設立しました。同社では、植物工場などでの就労機会を提供し、一人ひとりの特性や得意分野に応じた仕事づくりを推進しています。社会参加の場を広げながら、誰もが安心して長く働き続けられる環境づくりを進めています。

外国人材

| グループ横断 |

外国人材の活躍

両備グループでは、人材不足への対応に加え、多様な価値観や文化を取り入れた組織づくりを目指し、外国人材の採用・育成を積極的に推進しています。2019年の特定技能制度開始を契機に、新たな採用スキームの構築を進め、グローバルな組織づくりに取り組んでいます。ニッコー観光バスでは、日本で初めて実施されたバスドライバーの特定技能評価試験に合格した外国人社員が、2025年12月に初乗務として羽田空港内の客室乗務員専用送迎バスでデビューを果たしました。また、両備トランスポートでは、ベトナムやミャンマーの現地法人と連携し、物流事業における外国人雇用スキームの構築や、現地段階からの教育・育成体制の整備を推進しています。日本での就労にあたっては、言語や文化の違いを尊重しながら、生活面・業務面の両面で安心して働ける支援体制を整備しています。

他にも、介護や飲食分野でも外国人材の採用を進めており、外国人材が長期的に活躍できる環境づくりを進めることで、社員満足度の向上と組織力の強化を図っています。今後も両備グループは、多様な人材が互いに尊重し合いながら成長できる職場づくりを通じて、持続可能な企業経営と地域社会への貢献を目指しています。

デジタル人材育成

| グループ横断 |

デジタル人材育成の取り組み

両備グループでは、ヒューマントレジャーセンターを主幹に、社員がAI・DXの基礎から実践までを段階的に学べる体制を整え、現場の声を反映した実効性の高い育成プログラムを設計しています。幹部層から現場社員まで幅広く対象とし、組織全体のデジタル対応力の底上げを目指しています。

2026年度に実施/計画中の研修の例

AIの活用

生成AI超入門勉強会/eラーニング講座/実践的なハンズオン研修/個別指導形式のAI研修(幹部向け)

DX人材育成

DX講演会(幹部向け)/

バス・鉄軌道ユニットでのDX人材育成プログラム実施
(今後、他部門へも展開予定)

| グループ横断 |

IT人材の配置

両備グループは交通運輸、くらしづくり、まちづくりなどの事業においてITを活用し、現場力と理論の融合を進めています。両備システムズと連携し、各部門にIT人材を配置。現場での教育を通じて、若手からシニアまで幅広くITリテラシーの向上に取り組んでいます。

| ICT部門（両備システムズ） |

教育機関との連携による地域人材の育成

両備システムズは、大学や専門学校などとの連携を通じて、次世代のデジタル人材育成に取り組んでいます。「情報デザイン学部」を新設したノートルダム清心女子大学様と2024年に包括連携協定を締結し、PBLへの参画をはじめ、地域や社会の課題解決に挑戦する経験を通じて、実践的な学びの機会を創出しています。



| ICT部門（両備システムズ） |

データサイエンティストの育成

両備システムズでは、データ活用による新たな価値創出を目指し、2024年6月より社内向けにデータサイエンティスト育成プログラムを開始しました。AIやデータ活用の基礎から応用までを学び、ビジネス成長に貢献できる人材の育成を進めています。学習にとどまらず実践の機会を重視し、受講者自らがデータサイエンスを活用したサービス企画に取り組んでいます。今後も、社内および両備グループ内でのデータ活用アイデアの創出と、実績の積み重ねを通じたノウハウ蓄積を通して、将来的には成長エンジンとなるデータビジネスの事業化を目指していきます。



両備グループは、岡山・瀬戸内をはじめ、事業所があるすべての地域とのつながりを大切にしており、地域の魅力を引き出す事業に注力しています。地域とともに歩む姿勢を軸に置きながら、環境への配慮や国内外市場での成長も両立させることで、サステナブルでより良い社会を築いていきます。

Mission

4 地方創生とサステナブルな社会の実現への貢献

7 国内外市場での成長戦略と地域密着の両立

| T&T部門 |

宇宙一本気(マジ)な乗務社員採用プロジェクト

両備グループは、地域の交通インフラを支える人財確保のため、2023年6月に「宇宙一本気な乗務社員採用プロジェクト」を開始しました。2026年からのシーズン3では、採用エリアを中四国へ拡大するとともに、タレントのつるの剛士さんをCJO(チーフ・乗務社員採用・オフィサー)に迎え、プロドライバーの魅力を全国へ発信。移住支援策も一層充実させ、家賃補助や引越費用助成、家族の就業支援などにより、安心して新生活をスタートできる環境整備を進めています。また、岡山電気軌道ではバスと電車の両方を運行できる「二刀流」乗務社員の採用も継続。これらの取り組みにより過去最大となる250人の採用を目指し、交通運輸サービスを大規模かつ安定的・継続的に地域へ提供し続けます。両備グループは、人口減少時代においても、交通の未来を支える仲間とともに、地域の持続可能な発展に取り組んでまいります。



| T&T部門 |

進・宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト

両備グループは2023年4月より「進・宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト」を推進し、地域の魅力や話題性を取り入れた企画バスを運行。企業や学校とのコラボを通じた情報発信により公共交通への関心を高め、利用促進を図っています。

| T&T部門 |

持続可能な公共交通ネットワークを目指して

岡山市は持続可能な公共交通ネットワークの実現に向け、「地域公共交通利便増進実施計画」を策定し、両備バスや岡電バスがその推進に参画しています。2028年度までに郊外を中心とした新路線(支線)を整備し、駅間や拠点間を結ぶネットワークを構築を目指しています。市が施設を整備し民間が運行する公設民営方式の支線開設が、2025年から始まっています。今後も行政と連携して、交通の利便性向上と地域の活性化を図ります。

| T&T部門(国際両備フェリー) |

自動運航船プロジェクト「MEGURI(めぐり)2040」参画

国際両備フェリーは、瀬戸内の海上交通を将来にわたり安全かつ安定的に維持していくため、自動運航技術の社会実装を目指す日本財団の「MEGURI2040」プロジェクトに参画しています。「MEGURI2040」は、少子高齢化による船員不足や海難事故といった海事業界の課題解決を目指し、日本財団が推進する無人運航船プロジェクトです。2040年までに国内船舶の50%を無人運航化することを目標に掲げ、海上輸送の安全性向上や船員負担軽減、離島航路の維持、物流インフラの持続可能性向上に取り組んでいます。国内53社以上が参画し、AI・ICT・遠隔監視などの先端技術を活用した開発が進められています。

その一環として、国際両備フェリーの岡山航路では、自動運航システムの開発に参画。2025年12月には、「おりんぴあどりーむせと」に搭載された自動運航システムが、日本で初めて「自動運航船」として国の船舶検査に合格し、「船舶検査証書」の交付を受けました。一般旅客が乗船する定期船における自動運航技術の商用運航は、世界初の取り組みとなります。今後も両備グループは、最先端技術を活用しながら、地域の暮らしを支える海上交通インフラの維持・発展と、持続可能な地域社会の実現に取り組んでまいります。



| T&T部門(両備バス) |

沿線企業訪問による利用促進活動

両備バスカンパニーでは、公共交通をより身近に感じてもらうため、月に一度「公共交通の日」を設けています。この日に合わせて利用促進や情報発信を企業・団体と連携して実施し、利便性や環境への配慮を伝えることで、地域で支える持続可能な移動手段の定着を目指しています。

| 社会貢献部門(地域公共交通総合研究所) |

地域公共交通総合研究所

地域公共交通総合研究所は、両備グループが2013年に設立したシンクタンクで、人口減少や高齢化が進む地域の交通再生を目指しています。欧州型「公設民営」モデルの導入を推進し、自治体や事業者と連携して制度設計や運行計画を支援。実践的な研究と提言を行なっています。



02 食・仕事・子どもたちの未来への取り組み

with Society

子どもたちII地域の未来

| グループ横断 |

りょうびキッズカンパニー

「りょうびキッズカンパニー」は、子どもたちに普段見ることのできない現場や、なかなか体験できない「本物」の仕事に触れてもらうことで、将来の夢やあこがれを育んでほしいという想いから生まれた、小学生向けの両備グループのお仕事体験プログラムです。展開する多彩な業種を活かし、実際に働くプロが「上司」となって、子どもたちに仕事の楽しさややりがいを伝える「ガチお仕事体験シリーズ」を年3回程度開催しています。子どもの頃に抱いた強いあこがれは、大人になっても心に残り、時に人生の原動力になる。そんな記憶を子どもたちに届けることを目指しています。



| T&T部門（フェリー事業各社）|

「こども船長体験」の実施

国際両備フェリーや神戸ベイクルーズでは、「こどもの日」や「海の日」に小学生を対象とした「こども船長体験」を実施しています。抽選で選ばれた子どもたちが操舵室でのアナウンスや見張り、船内見回りなどを体験し、海や交通への関心と理解を深める機会を提供しています。



| グループ横断 |

グループ各社での出前授業や職場体験の受け入れ

両備グループでは、地域の未来を担う小・中・高校生に向けて、探究学習やキャリア教育の支援に積極的に取り組んでいます。グループ各社の多様な事業特性や現場の知見を活かし、学校への出前授業や職場体験の受け入れを通じて、地域社会や仕事について学ぶ機会を提供。社員との交流や体験型学習を通じて、子どもたちが将来の進路や地域との関わり方を考えるきっかけとなることを目指しています。今後も学校や地域と連携しながら、次世代育成と地域社会の活性化に貢献してまいります。



| T&T部門（バス事業各社）|

バスの乗り方教室

バス会社では、沿線の小・中学校を対象に「バスの乗り方教室」を実施しています。子どもたちが乗車マナーや安全な利用方法を体験を通じて学ぶことで、公共交通への親しみを育み、将来の利用促進につながるよう取り組んでいます。今後も地域と連携し、公共交通の役割を伝える活動を継続していきます。



| グループ横断 |

IPUフリースクールの子どもの職場体験受け入れ

両備グループでは、IPU・環太平洋大学様が運営するフリースクール「IPUブリッジ」と連携し、子どもたちに向けた職場体験機会を提供しています。実際の仕事や職場の雰囲気に触れる体験を通じて、子どもたちが社会とのつながりを感じ、自分らしい将来や働くことへの興味・自信を育める機会づくりを目指しています。2026年4月には初回の取り組みとして、両備ストアでのお仕事体験を実施し、店舗運営や接客業務などを体験いただきました。多様な子どもたちの学びと成長を支えることを目的に、今後もIPUブリッジと連携しながら、両備グループ各社の事業現場を活用して継続的に実施してまいります。



| グループ横断 |

おかえり!ランドセル♪

New!

社員のお子様が大切に使ってきたランドセルが、新たな場所で再び活躍することを願い、海外の子どもたちへの支援につなげる「おかえり!ランドセル♪」活動を開始しました。グループ全社の社員へ、自宅で使われなくなったランドセルの寄付を呼びかけ、クラレ様が実施する「ランドセルは海を越えて」プロジェクトに参加。集まったランドセルは同プロジェクトを通じて、アフガニスタンの子どもたちへ届けられます。初回となる2025年度は、51個のランドセルと学用品を寄付しました。今後も、物を大切にすると心と支え合いの輪を広げる取り組みとして継続してまいります。



02 食・仕事・子どもたちの未来への取り組み

サステイナブルなFOOD

｜くらしづくり部門（サルボ両備）｜

外食業界の次世代ビジネスモデル

サルボ両備では、人手不足や原材料高騰など、外食業界を取り巻く環境変化に対応するため、AI/DXを活用した店舗運営改革を推進しています。

原価や在庫管理のデジタル化に加え、販売データや在庫管理データ、曜日・天候・イベント情報などを活用して、時間帯別・カテゴリー別の売上構成や併売率、来店傾向を分析しています。これらを発注量の最適化やメニュー刷新につなげることで、生産性向上とフードロス削減、適正価格での提供を実現しています。また、モバイルオーダーやキャッシュレス化も進めています。

さらに、「店舗運営型ビジネス」ととどまらず、イベント運営や地域コンテンツと連動した「体験価値型ビジネス」への転換を推進しています。「THE MARKET...」への参画や、「おかやま珈琲時間」「世界バラ会議」への出展を通じて、地域との接点拡大と販路創出に取り組んでいます。

今後も、「食」と「地域体験」を融合した新たな価値提供モデルの構築を進めてまいります。



｜くらしづくり部門（サルボ両備）｜

サステイナブル・ウェルネス対応のメニュー開発

サルボ両備では、「糖質オフ」「グルテンフリー」「低カロリー」など、健康志向に応えるメニューの開発を進めています。さらに、野菜の切れ端を活用した「エコメニュー」をはじめ、地元のオーガニックやフェアトレード食材を取り入れ、体と地球にやさしい持続可能な食の提供を目指しています。



｜まちづくり部門（両備アグリウェルネス）｜

NEW!

多様性の象徴「ノウフクJAS」取得への挑戦

両備アグリウェルネスは、障がいのある人が農業を通じて力を発揮できる環境づくりを進めながら、自社ブランド野菜「Ortolano（オルトラノ）」で「ノウフクJAS」の認証を取得しました。「ノウフクJAS」は、障がい者が生産行程に関わった食品などに与えられる国の認証で、「みんなが地域の一員となり、一緒になって地域をつくっていく」取り組みを評価するものです。自他の多様性を認め合い、違いの中の強みを活かすことで豊かな共生社会の実現に貢献していきます。



｜くらしづくり部門（両備ストア）｜

地域生産者や企業との連携による地産地消の推進

両備ストアカンパニーでは、地元農業サービス会社や生産者と連携し、店舗やイベントでの販売に加え、ファーム体験にも取り組んでいます。産地直送の新鮮野菜や岡山県産の和牛、地元食材を使った弁当・総菜、自社の焼き菓子ブランド「グレースパラー」などを通じて、岡山の食の魅力を発信しています。

｜くらしづくり部門（両備ストア）｜

おかやま味コンテスト

両備ストアカンパニーは、2022年より「教えて！あなたの『おかやま味』コンテスト」を開催。家庭で親しまれるレシピを商品化・販売し、地域の人々が感性や経験を発信できる場を提供しています。選考通過者は「おかやま味アドバイザー」として商品開発にも参加し、岡山の新たなソウルフード創出と人々の成長と誇りにつなげています。

おかやま味コンテスト
歴代グランプリ
受賞レシピ



第1回グランプリ
テーマ：ジャンル不問
「ナスと豚バラのスタミナ丼」



第2回グランプリ
テーマ：豚肉（やまと豚）
「オムボークチャップ丼」



第3回グランプリ
テーマ：麺
「豚しゃぶれんこんバリ麺サラダ」



第4回グランプリ
テーマ：どんぶり
「激うま俺の生姜焼き」

地域産業の未来へ

｜グループ横断｜

NEW!

人財育成・組織変革の専門会社「KANAMEX（カナメエックス）」を設立

2026年4月、両備グループは人財育成・組織変革の専門会社「KANAMEX」を設立しました。グループ50社超での実践知を基盤に、地域の中堅・中小企業が直面する人手不足・事業変革・新たな競争環境への対応という構造的課題に、経営課題を起点とした人と組織のトランスフォーメーションで応えます。学びで終わらず、経営成果まで伴走するパートナーとして、地域産業の持続的な発展に貢献していきます。



| グループ横断 |

NEXT

グループ各拠点への太陽光パネル設置

両備グループでは、複数の事業所や両備エネシスのサービスステーションの屋根などに太陽光パネルを設置し、自ら電気を作り、使う取り組みを進めています。これにより電力会社からの購入電力量を減らし、電気代やGHG排出量の削減につなげているほか、両備エネシスではお客様へEV充電用に提供しています。また、新たな取り組みとして2026年度には、太陽光と農業を組み合わせた「営農型太陽光発電」が稼働開始。本設備の稼働により、倉敷市内の植物工場へ再生可能エネルギーの供給が可能となり、グループ内におけるエネルギーの地産地消をさらに推進します。こうした多様な取り組みを組み合わせることで、両備グループは2030年のGHG排出量削減目標に挑戦し続けていきます。

| くらしづくり部門（両備エネシス） |

カーボンオフセットLPG供給

両備エネシスは、2025年より、「カーボンオフセットLPG」の取り扱いを開始しました。これは、LPGの生産から燃焼消費までのすべてのバリューチェーンで発生する温室効果ガスを、認証機関の環境保全プロジェクトによるカーボנקレジットで相殺し、CO2排出実質ゼロを目指す取り組みです。現在岡山県内の企業への供給も拡大しており、より一層の脱炭素社会への実現に貢献します。

| くらしづくり部門（両備エネシス） |

大気環境配慮型SS

両備エネシスでは、燃料蒸発ガスを95%以上回収する機能を有する計量機を平井SS・藤崎SSの2店舗に導入し環境省・資源エネルギー庁より「大気環境配慮型SS(e→AS、イース)」として岡山県内では初の最上位Sランクの認定を受けました。今後も導入を拡大予定です。



| まちづくり部門（両備不動産東京） |

地熱発電施設運用

両備不動産東京カンパニーは、大分県別府市鶴見にあるバイナリー地熱発電施設を取得し、2022年度から稼働を開始。低炭素かつ安定的な電力供給を活かし、地域貢献を視野に入れた事業展開を目指しています。今後は他の再生可能エネルギーへの投資も積極的に検討しています。

| くらしづくり部門（両備ストア） |

地域住民のリサイクル推進

両備ストアカンパニーは、山南・雄町・泉田・藤田の各店舗にリサイクルステーションを設置し、古紙やペットボトル、食品トレーの水平リサイクルを推進。リユース品の活用も進め、循環型社会の実現を目指しています。2025年8月からは全店でペットボトルの「ボトルtoボトルリサイクル」を開始し、100%サステナブル化を目指しています。



| くらしづくり部門（礎コラム・藤倉工務店） |

「ゼロ廃材」現場管理ルールの徹底

両備グループの建築会社である礎コラム、藤倉工務店では環境配慮型施工として「ゼロ廃材」現場管理ルールを徹底し、廃材の発生を最小限に抑える取り組みを進めています。養生材の再利用や仕上げ材の適切な保管、余剰資材の他現場活用を実施し、無駄の削減と高品質施工を両立。持続可能な建設を通じて環境負荷を低減し、お客様に安心と付加価値を提供しています。

| まちづくり・くらしづくり部門（まちづくり・礎コラム） |

不動産・建築資産の価値最大化・価値再生

両備グループのまちづくりカンパニーおよび礎コラムでは、不動産や建築資産の価値最大化・価値再生を通じて、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。まちづくりカンパニーでは、不動産のリノベーションや用途変更、新規取得・活用を推進し、遊休地や既存資産を活かした地域密着型のソリューションを展開しています。例えば、老朽化した賃貸マンションを学生寮へ建て替えるなど、収益性と地域貢献を両立する活用モデルを実現しています。また、礎コラムでは、2025年度より不動産の価値再生事業に本格的に取り組んでいます。施工部門では、近年需要が高まる築古ビルのリニューアル・再生工事に対応し、従来の「スクラップ&ビルド」にとどまらず、既存建物の価値を活かした“建物再生”を推進しています。さらに、古民家や遊休不動産についても、建物を壊すのではなく、用途や形態を柔軟に変化させることで新たな価値を創出。地域の歴史や景観を活かした空間づくりを通じて、新たなにぎわいや魅力を生み出しています。両社は、これまで培ってきた施工技術や提案力を活かしながら、環境負荷の低減と地域資源の有効活用を両立し、持続可能で活気ある地域社会の実現に貢献してまいります。

| くらしづくり部門（両備テクノモビリティ） |

次世代モビリティ普及への貢献

両備テクノモビリティカンパニーでは、長年培ってきた高度な自動車整備技術を強みに、「EVコンバージョン」と「レストア」に取り組んでいます。旧型バスやクラシックカーを電気自動車へ改造するEVコンバージョン技術に加え、車両本来の価値や魅力をよみがえらせる高いレストア技術を有していることが特長です。これらの技術を組み合わせることで、古い車両に新たな価値を生み出しています。2025年からはクラシックMINIのEV化に着手。さらに2026年度以降は、安全性や整備性を高めたバッテリー仕様による新型クラシックMINIのEV開発・製作を進めています。懐かしさと最新技術を融合させた一台を通じて、次世代モビリティの普及と持続可能な社会の実現を目指します。



| くらしづくり部門（両備ヘルシーケア） |

リフォーム介護施設の展開

両備ヘルシーケアでは、地域に根ざした病院や旅館をリノベーションし、介護施設として再活用しています。地域の信頼を引き継ぎつつ、温泉や旅館風の昼食を提供するデイサービスなど、建物の特性を活かした独自の介護サービスを展開し、施設に新たな価値を創出しています。

03 地球にやさしく

地球にやさしい住まい

| まちづくり部門 (まちづくり・両備ホームズ) |

NEW!

環境にやさしい戸建て

両備ホームズは、環境にやさしい住まいづくりを進めています。ZEH※対応住宅や高断熱・高気密の設計で省エネを実現し、太陽光発電の活用も積極的にご提案しています。地球にやさしく、快適で持続可能な暮らしをサポートします。また、2025年度からは、家づくりの過程で大量に発生する木の端材を、ご家庭でのDIYに活用いただくべく両備ストアカンパニー店舗等で無償で提供しています。端材の大量廃棄を防ぐだけでなく、お客様にも喜んでいただける一石二鳥の取り組みです。



| まちづくり部門 (まちづくり・和田コーポレーション) |

環境にやさしいマンション

両備グループのマンション事業では、省エネ設備やEV充電器、防災倉庫の導入など環境配慮型の住まいづくりを推進。既存物件にはリフォームを提案し、和田コーポレーションは全物件にZEHマンションを採用。四国電力様と連携したオール電化マンションの展開にも力を入れており、安心で持続可能な暮らしを実現しています。



地球にやさしい移動

| T&T部門 (両備トランスポート) |

NEW!

シェアサイクル事業により公共交通の利便性を向上

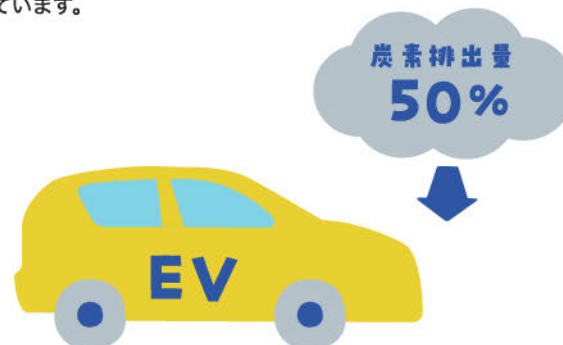
岡山市の認定シェアサイクル事業において、両備トランスポートは実運営管理会社として現場を支えています。ドコモ・バイクシェア様の先進システムのもと、自転車の適正配置や充電、車両管理を徹底し、鉄道やバスではカバーしきれない「ラストワンマイル」の移動をサポート。地域の脱炭素化や渋滞緩和に寄与するとともに、利用者目線に立ったサービス設計と安全管理を通じて、誰もが安心して使える公共交通の利便性向上と、顧客中心の価値創造を実現しています。



| T&T部門 (タクシー事業各社) |

地球にやさしい車両への代替

両備グループのタクシー会社では従来からガソリンと比較して炭素排出量が少ないLPG車を使用していますが、さらに環境負荷の少ないLPGハイブリッド車「JPN TAXI(ジャパンタクシー)」や、EV車両などの導入を推進中です。2050年のカーボンニュートラル達成に向け、2030年度までに2013年度比で炭素排出量を50%削減することを目標に、計画的な車両更新を進めています。



GREEN TRANSFORMATION

| グループ横断 |

GHG排出量算定と一元管理

2023年度より、グループ全社で、GHG(温室効果ガス)の算定を行なっています。また、グループとして以下の削減目標に向けて削減施策を実施しています。

両備グループのGHG

(Green House Gas = 温室効果ガス)削減目標

両備グループは2030年度までに、2013年度比(※1)でScope1・2(※2)のGHG排出量 38% の削減を目指します。

この目標は、両備グループの事業ポートフォリオと日本の産業部門別NDC(※3)に基づき、日本の2050年のカーボンニュートラル達成のロードマップに準拠しています。2023年度時点で、グループのGHG排出量の約80%は交通運輸部門によるものであり、この部門ではNDCの35%削減目標よりも高い、39%の削減目標を設定しています。

2025年度のグループのGHG排出量は約77,650t-CO2(※4)で、これは2025年度の目標に対し3%多く削減できています。今後もグループ一丸となって地域の脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※1 基準年度2013年度に会社が存在しない等、取得ができない会社については、2014年度以降で取得可能な過去年度を基準として設定しています。

※2 Scope1…燃料の燃焼や製品の製造などを通じて、企業・組織が直接排出するGHG

Scope2…他社から供給された電気・熱・蒸気を使うことで、間接的に排出されるGHG

※3 NDC(国が決定する貢献)とは、パリ協定に基づいて日本が作成・通達・維持しなければならない温室効果ガスの排出削減目標等です。各国で2050年のカーボンニュートラル達成に向けたNDCが設定されています

※4 2025年度の速報値。四国汽船・三菱ふそう中国地区販売を除く。



04 ノウハウの拡大



| 横断組織（両備グループサステナビリティ本部）|

生物調査と生物多様性への対応

両備グループは、岡山・瀬戸内エリアの生物多様性保全につながる取り組みとして、株式会社バイオームが提供するいきものコレクションアプリ「Biome（バイオーム）」を活用した県民参加型の生物調査イベントを2024年度より実施しています。2025年度は、ちゅうぎんフィナンシャルグループ様との共催で、岡山県全域を対象にした生物調査イベントを実施し、約5,000件の生物データが集まりました。今後もデータの収集・蓄積を継続していくとともに、行政・地域企業と連携して岡山・瀬戸内エリアにおける生物多様性保全の具体アクションを検討するコンソーシアムも設立予定です。



| 横断組織（両備グループサステナビリティ本部）|

脱炭素コンサルティング事業

両備グループは、50社超の体制構築ノウハウを活かし、地域企業向けにGHG排出量算定や削減支援を行なう「脱炭素コンサルティング事業」を推進。地域の企業様に向けて実情に合った支援を提供するほか、「脱炭素ははじめの一歩セミナー」も定期開催し、地域全体での脱炭素の取り組み拡大を目指しています。



| ICT部門 |

GREEN COMPASS 2050

ICT部門は、2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、環境方針「GREEN COMPASS 2050」を策定しました。本方針では、TCFD提言に基づき、気候関連のリスクと機会を事業戦略に反映させています。2030年までにScope1・2の温室効果ガス排出量を51.2%削減する中期目標を掲げ、ICT技術を活用した環境支援に加え、社員の主体的な行動を促す人材育成にも注力しています。



| グループ横断 |

グリーン調達

環境に配慮した製品やサービスを優先的に選んで購入する「グリーン調達」をグループ全社で進めています。特に事務用品での取り組みが進み、両備ホールディングス本社では2025年度からリサイクルコピーペーパーを導入。全社で環境基準を満たすコピー用紙の購入率100%達成を目指しています。



| ICT部門（両備システムズ）|

GX人材の育成

両備システムズは社員のGX意識向上のため、カーボンニュートラル学習動画の配信やビジネスゲーム形式のワークショップを開催し、ワークショップは社外向けにも実施した実績ができました。さらに、GX検定ベーシック資格の取得を推進し、90名以上が取得しました。

日本全国への拡がり

| ICT部門（両備システムズ・シンク）|

自治体システムの標準化対応

自治体システムの標準化は、全国の自治体が共通仕様のシステムへ移行し、行政のデジタル化や業務効率化を図る取り組みです。両備システムズは、住民情報や福祉、健康、滞納整理業務の標準化対応システムを全国に提供しています。

健康かるて：

住民の健康情報を一元管理し、保健活動を効果的に支援するシステム

R-STAGE 福祉情報システム：自治体福祉業務を支援する総合福祉システム

THINK CreMaS Advance（シンククレマスアドバンス）：

滞納整理業務を計画的・効率的に進めるシステム

今後は、基幹業務の標準化やガバメントクラウド移行を経て、自治体システムの共通化および公共サービスメッシュを活用したデータ連携型の自治体DXへと発展していくことが見込まれます。加えて、国および地方自治体が保有する情報を横断的に連携・再利用することで、全体最適の視点から住民サービスの高度化と業務プロセスの効率化を実現するフェーズへと移行しつつあります。こうした環境変化を踏まえ、モダン化されたシステム開発の推進に加え、データ活用を前提とした行政サービス全体の高度化に向けた取り組みを本格的に開始しています。

| T&T部門（両備トランスポート）|

両備ロジサポート岡山ベース稼働

両備トランスポートカンパニーでは、2025年2月に岡山県都窪郡早島町に物流拠点「両備ロジサポート岡山ベース」を開設しました。本拠点は早島ICから約1.9kmという優れた立地にあり、福岡～関西、山陰～四国を結ぶ広域物流ネットワークの中継拠点として機能します。延床面積約18,000㎡、地上3階建ての倉庫には低床・高床バースを備え、重量物を含む多様な物流ニーズに対応。効率的で安全性の高いオペレーションを実現しています。また、館内には空調設備や従業員ラウンジを整備し、働きやすい環境づくりを通じて人材定着と地域雇用の創出にも寄与しています。さらに、太陽光発電システムの導入など環境配慮型設備を採用し、ZEB Ready認証※取得を目指すことで、脱炭素社会に向けた取り組みも推進。地域に根ざした物流基盤の強化と、持続可能な成長戦略を両立する拠点として、今後も地域社会とともに発展していきます。



04 ノウハウの拡大

| T&T部門（両備トランスポート） |

NEXT

ASEANコールドチェーン事業戦略

両備トランスポートカンパニーでは、成長著しいASEAN地域における冷凍・冷蔵物流（コールドチェーン）事業の強化を図っています。日本国内で冷凍・冷蔵倉庫の不足が課題となるなか、ベトナムやミャンマーに保有する物流施設を拠点に、日本とASEANを結ぶ広域物流ネットワークの構築を進めています。国際輸送では、信頼性の高い物流パートナーと連携し、温度管理を徹底した輸送体制を整備。食品や医薬品など高度な温度管理が求められる商品についても、品質を維持したまま安全・確実に届けるサービスを提供しています。こうした取り組みを通じて、日本とASEANを結ぶ高品質なコールドチェーンの構築を推進するとともに、現地雇用の創出や物流インフラの高度化を通じて地域経済の発展にも貢献しています。今後も、食品共同配送におけるノウハウを生かしながら、地域密着とグローバル成長の両立を目指します。

| T&T部門（物流事業各社） |

ベトナム市場の物流サービス拡充

ベトナムにある物流事業会社「RYOBI LOGISTICS PROPERTIES VIETNAM」は、ホーチミン市近郊のビンズオン省・タンドンヒップB工業団地に新たな物流倉庫を建設し、2024年12月より営業を開始しました。これにより、ベトナム国内における自社倉庫は3棟目となり、現地物流体制のさらなる強化を実現しています。本エリアは、今後も持続的な経済成長が見込まれ、製造業・流通業を中心に物流ニーズが高まる地域です。新倉庫はホーチミン中心部から約20kmとアクセス性に優れ、周辺工業団地との連携にも適した戦略的な立地となっています。既存の倉庫や物流ネットワークと連携し、食品、消費財、自動車、精密機器など幅広い業種に向けて、効率的かつ高品質な物流サービスを提供。地域経済の発展に貢献するとともに、ベトナム市場に根ざしたインフラ整備を通じて、国内外市場での成長戦略と地域密着の両立を推進しています。



| 横断組織（海外事業サポート部） |

海外進出アドバイザー事業

両備グループの海外事業サポート部は、グループ外企業向けに「海外進出アドバイザー事業」を展開。現地法人設立支援やM&Aにおけるアドバイザー業務、現地企業の紹介などを通じて、実務的かつ多面的に海外展開を支援しています。



| グループ横断（海外事業サポート部） |

海外マッチングビジネス

両備ホールディングスおよび両備グループの投資会社「CASCO INVESTMENTS」を主幹として、海外投資家と日本の有望案件をつなぐ「海外マッチングビジネス」を展開。金融機関やコンサル会社と連携し、相互の投資ニーズに応え、日本企業の海外進出や地域経済の活性化を後押ししています。



| ICT部門（両備システムズ・Ryobi Lao） |

ICT事業の海外展開

両備グループでは、ICT分野の事業をさらに広げるため、海外での取り組みを強化しています。特に、成長が期待されるラオスやバングラデシュでの活動に力を入れています。ラオスでは、現地法人「Ryobi Lao」と連携し、政府向けDX提案など、国のデジタル化を推進する事業検討をしています。また、バングラデシュでは、農業のデジタル化（農業DX）や環境に配慮した取り組み（GX）を進めるプロジェクトが2025年から始まり、2026年はさらに事業効率化を高める施策に挑戦しています。農業DXや医療情報の分野で事業検討できる海外のフィールド調査も行なっています。



05 地域の文化を守り・育てる

with Society

ミシュラン一ツ星

| 社会貢献部門（両備文化振興財団） |

夢二郷土美術館

夢二郷土美術館は、岡山が生んだ詩人画家・竹久夢二の作品の里がえりを願って1966年に創立され、その芸術の原点や心を伝える美術館として、地域文化の継承と創造に取り組んでいます。ミシュランガイドでは一つ星を獲得。2024年に夢二生誕140周年、2026年には美術館創立60周年を迎えます。訪れる人の心身のリフレッシュや知的刺激を促す文化的ウェルビーイングの提供を目指しており、グループ内のカンパニーとの連携も進行中。また、地域の子どもたちが夢二の芸術に触れ、郷土への誇りと感性を育む教育活動「こども学芸員」制度も2012年より展開しています。SDGsに則った環境配慮型の運営や地域資源の活用にも積極的に取り組み、「地域にも、子どもたちにも、地球にもやさしい」両備グループの象徴的な施設として、地方創生と持続可能な社会の実現に貢献しています。

2026年創立60周年記念イベント

7～9月 「YUMEJI POP-UP MUSEUM」@杜の街グレース

竹久夢二の木版画50点と、現代作家による多彩な版画17点の競演をはじめ、夢二の世界観を楽しめる空間や人気のミュージアムグッズショップを期間限定でオープン。

9～12月 創立60周年記念 特別展 夢二とドイツ@本館

創立60年を記念し、夢二が晩年に外遊した際にドイツのベルリンで描いた作品を初公開。また、夢二がドイツで日本画の講師をつとめた際に描いた作品も紹介するなど知られざる晩年の画業を中心に展観。



質の高い地域社会へ

| 社会貢献部門（両備緑園記念財団） |

両備緑園（ていえん）記念財団による研究助成

1979年から助成活動を開始した両備緑園記念財団は、真に質の高い地域社会の実現を目指し、萌芽性・新規性・独創性のある生物学分野の研究を奨励するとともに、新産業の創出につながる学術研究の振興に取り組んでいます。岡山県内の研究助成をはじめ、芸術・教育・スポーツの振興、文化財の保護・保存、学術研究集会への助成など幅広い活動を展開しています。助成活動開始以来の助成件数は累計1,300件を超え、岡山県内の大学や研究機関を中心に、学術・文化活動を支えています。



06 WONDERFUL SETOUCHIな取り組み

| グループ横断 |

WONDERFUL SETOUCHI(ワンダフルセトウチ)プロジェクト

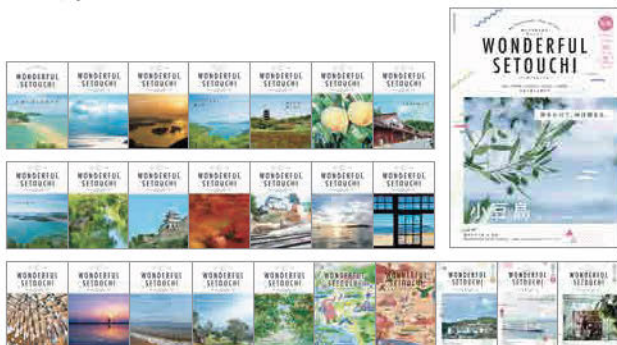
2014年にスタートした「WONDERFUL SETOUCHIプロジェクト」は、地域に育てていただいた両備グループが、瀬戸内への感謝を形にするために始めた地域共創プロジェクトです。実働部隊であるグループワッショイサポート部が中心となり、観光フリーマガジンの発行やイベントの開催などを通じて、瀬戸内の営みや人々の想い、まだ知られていない魅力を発信。地域の方々とともに、誇りと親しみを育む活動を展開しています。



| グループ横断 |

『WONDERFUL SETOUCHI』の発行

瀬戸内には、美しい自然や豊かな食文化、地域に根差した産業や暮らしなど、多彩な魅力があります。岡山に100年以上根ざし、地域のインフラを担ってきた両備グループは、「地域を生活や移動でつなぐ」だけでなく、「物語や人とのつながりでもつなぐ」ことを目指し、観光フリーマガジン『WONDERFUL SETOUCHI』を発行しています。瀬戸内に息づく文化や仕事、暮らしを丁寧に取材し、自治体や生産者、学生、企業、伝統工芸など、さまざまな人や地域の魅力を発信。無料で手に取れる冊子として広く届けることで、地域の方々にも新たな発見や再発見の機会を創出しています。さらに、冊子だけにとどまらず、イベントや交通媒体などへ展開することで、人と地域の継続的な交流を生み出し、瀬戸内の魅力を次世代へつなぐ取り組みを進めています。



| グループ横断 (グループワッショイサポート部) |

イベント「瀬戸内みっけみっけ!」の開催

観光フリーマガジン『WONDERFUL SETOUCHI』の取材をきっかけに生まれたイベントシリーズ「瀬戸内みっけみっけ!」。取材を通じて出会った瀬戸内の「いいもの」「おいしいもの」を、もっと多くの人に知ってもらいたいという想いから始まりました。両備ストアカンパニーでの販売や飲食店との連携、杜の街グレースでのイベント開催など、グループ各社の強みを生かしながら、生産者と消費者、地域と人をつなぐ機会を創出。産地直送の商品や地域ならではの魅力を届けることで、新たな出会いや交流を生み出しています。



| T&T部門 (岡山交通) |

「YELLOW SPECIALITY」シリーズの展開

岡山交通では、黄色いタクシーと岡山の魅力を融合させた「YELLOW SPECIALITY」シリーズを展開。第5弾の「点字ブロックタクシー」では、見るだけではなく「触って、聴いて、食べて楽しむ」ことをテーマとした体験型タクシープランをご提供しています。「YELLOW SPECIALITY」シリーズは、街を走るだけでなく、観光プラン作成やイベントでの車両展示などを通じて、地域の魅力発信と観光促進に貢献しています。



| まちづくり部門 (まちづくり) |

杜の街グレースにおけるにぎわい創出

杜の街グレースは、「住む・働く・集う」を融合した複合まちづくり拠点として、オフィス、商業、居住機能に加え、緑あふれる空間や多彩なイベントを通じて、岡山中心部に新たなにぎわいを創出しています。2025年には、杜の街プラザの年間来館者数が開業以来初めて100万人を突破し、約107万人が来場。年間65回のイベントを開催し、特に夏に立案・実施したサンリオ展は大きな話題となりました。また、岡山県下最大級のイベント「うらじゃ」の演舞場のひとつとなるなど、多くの人が集う場として、さまざまなイベントや催しの開催地に選ばれています。商業施設には魅力的な店舗の出店が続き、岡山都心部の新たな集客拠点としての存在感を高めています。さらに、オフィス棟への入居も進み、ビジネス拠点としての注目度が高まっています。現在は北側エリアで第2期開発プロジェクトも始動しており、さらなるエリア価値の向上に取り組んでいます。



| 横断組織 (グループワッショイサポート部) |

児島デニムを使用した遠征着の製作

グループワッショイサポート部はIPU・環太平洋大学サッカー部様に対して児島デニムを使った遠征着の導入を支援しており、4年間着用可能な移動着として活用いただいています。修繕保証を付けることで環境負荷を軽減し、SDGsにも配慮しています。統一デザインの着用は岡山や児島デニムのPRにもなり、地域の魅力発信と学生の一体感を高める取り組みとして注目を集めています。



| 横断組織（たまルンプロモーションセンター） |

たまルンカード・たまルンポイント

たまルンカードは、両備グループや岡山地域の加盟店で使える共通ポイントサービスです。買い物やレジャーでポイントが貯まり、支払いに利用可能。WEBやアプリで情報発信も行ない、地域活性化に貢献しています。さらに、利用頻度の高いお客様には「たまルンゴールドカード」を発行し、両備グループ各店での優待や特典をご提供。今後は、両備グループならではのロイヤルティプログラムの展開やデジタルマネー機能の搭載も目指しており、一層の地域商圈の活性化に取り組みます。



| 横断組織（たまルンプロモーションセンター） |

たまルンMALL

たまルンMALLは、瀬戸内エリアの特産品や雑貨を扱うECサイトで、購入金額に応じてたまルンポイントが貯まります。贈り物や日常使いの商品探しに最適で、お気に入りの商品を見つけるためにネットでおさんぼショッピングができます。地域の生産者へのインタビューも掲載。商品の背景や想いを伝えるとともに、小規模事業者にとっては全国への販路としても活用されています。また、2025年度からは新たにギフトクーポンの取り扱いをスタートし、地域の「良いもの」をより多くの人に届ける施策を広げています。



| グループ横断 |

グループ一斉清掃活動の実施

「これまで育ててくださった地域への感謝の気持ちを清掃活動で表現しよう」という想いで、春と秋の年2回、グループ全社で一斉清掃を実施しています。両備ホールディングスや両備システムズの本社がある杜の街グレースでは掃除の時も楽しもう、と参加者全員がサンタの衣装に身を包み街を掃除する「おそうじサンタ」を毎年実施。地域の季節の風物詩となっています。



| T&T部門（国際両備フェリー） |

港のマルシェ

「港のマルシェ」は新岡山港で定着しつつある人気イベントで、グルメや「のりもの大集合」などの楽しい催しを通じて幅広い世代が楽しめます。たまルン加盟店や協賛店が出店し、豊富な店舗ラインアップで満足度も高く、来店ポイントや抽選会、ゲームなど来場特典も充実しています。



| T&T部門（岡山交通・岡山両備タクシー） |

岡山県全域での都市型ハイヤー

「都市型ハイヤー」とは、国の地域指定を受けた都市部で回送時間を含む2時間以上の貸切運行を条件とするハイヤーサービスです。岡山県は、全国に先駆けて「県全域」を営業区域として指定されました。岡山交通と岡山両備タクシーでは都市型ハイヤーサービスを展開し、県全域を網羅するモビリティネットワークを構築。従来では対応が難しかった地域間の送迎など、多様なニーズに対応することで、地域経済の活性化や観光振興に新たな推進力をもたらしめています。

| 横断組織（ウェルビーイング事業部） |

RR（ダブルアール）Conditioning & SPA

両備グループが杜の街グレース内で運営するRR Conditioning & SPAは、2024年12月、岡山市で初となる「温泉利用型健康増進施設」として厚生労働省認定を取得しました。運動と温泉を組み合わせた独自のコンディショニングプログラムを通じて、生活習慣病予防や健康増進を支援しており、利用内容に応じて医療費控除の対象となる点も特徴です。また、地域住民の健康づくりに加え、コンディショニングを通じた健康啓発にも注力しており、法人向けセミナーやプログラムの展開も推進。企業における健康意識の向上や、働く人々のウェルビーイング向上を支援することで、地域と企業双方の健康課題解決に取り組んでいます。



| 横断組織（たまルンプロモーションセンター） |

中国からのインバウンド送客事業

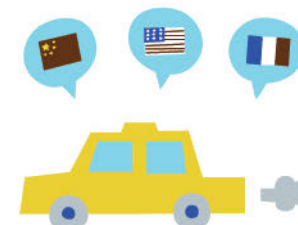
訪日観光客の西日本への拡大を見据え、地域店舗ではインバウンド対応が進行中。地域の店舗が海外からの旅行者を迎える準備を進める動きが出てきています。たまルンプロモーションセンターは、中国旅行会社と連携するサービス「JP酷鵬（クーボン）」の日本総代理店として、店舗と観光客をつなぐ支援を展開。導入企業ではすでに中国からの来客があり、新たな来店促進や地域の活性化が期待されています。今後は、中国のほかにもさまざまな国を対象にインバウンド送客施策を進めます。



| T&T部門（岡山交通・岡山両備タクシー） |

インバウンド向け多言語対応タクシー

岡山交通・岡山両備タクシーは、インバウンド対応強化のため英語・中国語対応ドライバーを育成し、訪日観光客にも安心なサービス体制を整備。地域のお客様には従来通りの丁寧な接客を、外国人観光客にも快適な移動体験を提供し、地域密着とグローバル対応の両立を実現しています。





両備グループは、約50社のグループ企業間の連携を深め、シナジー効果の最大化を目指しています。グループ内の異業種がタッグを組んだ新たな価値創造や、ICT部門を中心としたDXによって地域や業界の課題解決を図ります。また、国内外のパートナー企業や自治体との積極的な共創により、想像もつかない素晴らしい未来を実現してまいります。

Mission

3 グループシナジーと生産性向上

8 次代に合わせたビジネスモデルの変革

瀬戸内のフェリーに新たな価値を

「T&T部門（フェリー事業各社）」

NEXT

瀬戸内のフェリーを特別な体験空間へ —ユニークベニュープロジェクト始動

瀬戸内海の公共交通フェリーを「ユニークベニュー（特別な会場）」として活用し、観光振興や地域活性化、MICE市場の強化を目指す取り組みを進めています。このプロジェクトは、2025年度に実施した「WONDERFUL SOLUTION PROJECT」で採択されたもので、フェリーという移動空間を単なる移動手段にとどまらない、新たな価値を持つ空間へと進化させる取り組みです。両備グループと岡山放送様を中心に、地域資源とメディアの力を融合させた新たな地域創生プロジェクトとして、社会実証をスタートしています。

「T&T部門（四国汽船）」

NEW!

四国汽船と描く瀬戸内航路の未来

2025年4月より、瀬戸内海で97年の歴史を持つ四国汽船が両備グループの一員となりました。公共交通や観光振興に取り組む両備グループとの連携により、瀬戸内海の生活航路を支えるとともに、瀬戸芸クルーズネットワークの創設を目指し、世界に誇る観光地・瀬戸内の魅力向上に取り組んでいます。グループイン後は、利便性向上と業務効率化を目的にキャッシュレス券売機を導入。外国人旅行者を含む利用者の利便性向上に加え、窓口業務の負担軽減にもつながっています。今後もデジタル技術を活用しながら、瀬戸内の海と人々の暮らしをつなぐ、快適で持続可能な海上交通サービスの実現を目指してまいります。



小豆島

「T&T部門（島島島（ととと）」

NEW!

小豆島の玄関口に誕生する、新たな滞在拠点「島泊/島飯/島湯」

香川県・小豆島において、2026年9月、新施設「島泊 / 島飯 / 島湯（シマハク シマメシ シマユ）」を開業。本施設は、ホテル・レストラン・温泉の機能を備え、島の魅力に出会うきっかけを提供する複合施設です。

「島泊」では、全31室・9タイプの客室をご用意。家族でゆったり過ごせる広々とした客室から、ひとり旅やカップル向けのお部屋まで、多様な滞在ニーズに対応しています。天井高4.5mの開放感ある空間や檜風呂付き客室など、それぞれ異なるデザインを採用し、島の空気感や港町ならではの雰囲気を感じられる空間づくりを行なっています。

「島飯」では、小豆島の鮮魚や瀬戸内の旬の食材を生かした料理を提供。インダストリアルな質感と木材の温かみが調和した空間で、小豆島ならではの食体験を楽しめます。また、宿泊者以外のお客様も気軽に利用できる、地域に開かれたレストランとしても運営します。

「島湯」では、小豆島で最初に湧出した天然温泉「塩の湯」を活用し、ロウリュサウナや水風呂も整備。観光客と地域住民が自然に交流できる“島の社交場”として、新たな温浴体験を提供します。

また、施設前の広場空間では、地域イベントやマルシェなどの開催も予定しており、観光客と地域住民がつながる交流拠点としての役割も担います。世界中から注目を集める瀬戸内国際芸術祭の鑑賞拠点としての最適な立地を生かし、小豆島の新たな魅力発信と地域活性化を目指してまいります。

本施設の運営は、両備グループの新会社「島島島（ととと）」が担います。



「横断組織（グループワッシュイサポート部）」

小豆島の魅力を磨き、世界へ発信

グループワッシュイサポート部は、地域活性化の実働部隊として、地域に眠る魅力を掘り起こし、新たな価値へとつなげる活動を行なっています。そのひとつが小豆島での取り組みです。小豆島を世界に誇れるリゾート地にしたいという想いのもと、2025年JBCF（全日本実業団自転車競技連盟）とともに全国規模の自転車競技大会「小豆島寒霞渓ヒルクライム」を企画・開催。国際両備フェリーをはじめ、自治体や観光関係者と連携しながら運営を行ない、約200名の参加者を迎えました。寒霞渓の絶景や島の魅力を広く発信することで、観光地としてのファン拡大にもつながっています。また、島の食や特産品の魅力を活かした商品開発にも注力しています。島産ブドウを牡蠣いかだの下で熟成させる「海底ワイン」や、小豆島産牡蠣との組み合わせによる新たな食の提案など、地域資源を生かした体験価値を創出。生産者や事業者をつなぐ橋渡し役として、地域の新たな魅力づくりを進めています。



営業推進連携

グループ横断 |

グループシナジーを最大化する営業DX

両備グループでは、グループ各社のクロスセルの推進や新規顧客の開拓、新たなビジネスチャンスの創出を目的として、2020年度より営業情報連携システム「CaTS」を活用し、グループ各社の社員が日々の営業活動で得た情報を可視化・共有することで、組織の枠を超えた連携とシナジーの創出を実現しています。あわせて、営業情報の発信や成果を正当に評価する社員表彰制度を導入し、一人ひとりの主体的な情報共有を後押ししています。こうした取り組みにより、個の力をグループの力へとつなげる営業活動を推進しています。さらに営業基盤の高度化に向け、2025年12月にはグループ全体で名刺管理システム、2026年4月には折衝記録管理システムを導入しました。人脈や顧客接点をグループ全体で可視化・共有することで、継続的で質の高い顧客対応を可能にし、グループ全体の営業力強化と価値提供の最大化を目指していきます。

シニア関連事業でのシナジー

グループ横断 |

両備ならではの！安全安心のバス旅行

両備ヘルシーケアは、有料老人ホームご入居者様を対象に、年に一度の日帰りバス旅行を企画しています。本ツアーは、リョービツアーズと両備バスカンパニーが実施、両備ヘルシーケアの介護・看護スタッフが同行するもので、移動から現地でのサポートまで、グループ一体となった体制で安全・安心をお届けしています。

NEW!

くらしづくり部門（両備ヘルシーケア・両備ストア） |

入居者の買い物をもっと便利に

両備ヘルシーケアが運営する有料老人ホームでは、両備ストアカンパニーと連携して、外出が難しい方でも好きな商品や新鮮な食材を気軽に購入できる環境を整えています。また、入居者様やデイサービス利用者様向けに、両備ストア店舗での買い物イベントも定期的に開催。店舗スタッフによる商品説明やレジ誘導などのサポートが行なわれ、安全・安心に買い物を楽しんでいただいています。両備グループ内にスーパーマーケットを持つ強みを活かし、両備ヘルシーケアのお客様の生活の質向上に取り組んでいます。

NEXT

グループ横断 |

高齢者サポート研修の実施

高齢化の進行に伴い、高齢者対応の重要性が高まるなか、両備ヘルシーケアでは、介護業務で培った知識を活かし、タクシーユニットや両備ストアカンパニーなどに向けて、高齢者への理解と接遇に関する研修を座学と実技で実施しています。

くらしづくり部門（サルボ両備・両備ヘルシーケア） |

健康に寄り添う食の新提案

サルボ両備では、糖尿病・高血圧・嚥下困難に配慮したメニューを両備ヘルシーケアと連携して開発しています。また、仕事と介護を両立する方向けに、栄養バランスの良いミールキットを自宅や職場で受け取る仕組みも整え、やさしい食の提供を進めています。

グループ横断 |

ROF（両備OBファーマーズ）農産物

両備グループには、グループ経営理念である「忠恕（真心からの思いやり）」を体現し、退職後も社員同士がつながり続ける場を提供することを目的としたOB会「忠恕の会」があります。同会メンバーの中で、農業に従事するOBの集いを「ROF」と称し、地域とつながるイベントを実施しています。毎年夏に開催する野菜や果物の即売会は、地域貢献を実感でき、生きがい創出につながるとしてOBにも好評のイベントとなっています。



グループ外連携

グループ横断 |

ANA/JAL協調施策の推進

ANA（全日本空輸）様、JAL（日本航空）様、両備ホールディングスの3社は、将来を見据えた空港ハンドリング業務の新たな運営モデルの構築に向けて連携し、岡山桃太郎空港をパイロット空港として実証的な取り組みを進めています。具体的には、航空会社間での車両共用化や、旅客業務の相互支援などを通じて、空港業務の効率化と持続可能な運営体制の実現を目指しています。

NEXT

グループ横断 |

合併会社「N-LOGIパートナーズ」との協業

両備グループは、2024年8月にレンタルのニッケン様と合併で「N-LOGIパートナーズ」を設立しました。設立後は、神奈川県厚木市に新たな物流センターを立ち上げ、ICTを核とした次世代型物流モデルの構築に取り組んでいます。本協業では、AI・IoTなどの先進技術を活用し、共同配送の推進、物流拠点の最適化、運行管理の高度化、さらには業務プロセスの見える化・標準化を進めています。これにより、グループおよびパートナー企業全体の物流効率と生産性を高めるとともに、持続可能で競争力のある新たな物流ビジネスモデルの確立を目指しています。今後も、異業種連携によるグループシナジーを最大限に活かし、次代にふさわしい物流ソリューションの創出を進めてまいります。



グループ横断 |

自社アプリ「TAXI.come（タクシードットカム）」の拡大

タクシー配車アプリ「TAXI.come」は、両備グループのタクシーだけでなく、地域のタクシー会社との連携にも取り組んでいます。2025年からは複数社との連携を開始し、アプリから注文できる車両の拡大を進めています。事業者の枠を超えて連携することで、必要なときによりスムーズにタクシーをご利用いただける環境を整え、地域交通の利便性向上を目指しています。



グループ横断 |

メディカルAIの事業化

両備システムズは岡山大学様と連携し、AIを活用した医療システムの開発を推進。2024年3月には早期がんの深達度診断支援で国内初の承認を取得し、7月には胆道がんにも対応。AI診断支援技術の事業化を進め、医療の未来づくりに貢献しています。



02 社内外の仲間との連携

「まちづくり部門」

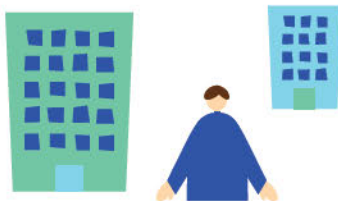
NEW!

新築分譲マンションプロジェクトの共同実施

まちづくり部門では、各社の強みを掛け合わせた協業により地域に根ざし、お客様にとって一層魅力ある住まいづくりの実現を目指しています。

不動産事業における新たな連携モデルの例：

「ロイヤルガーデン老松町貳番館」
まちづくりカンパニーおよび和田コーポレーションを事業主、両備ホームズを施工会社とする共同事業を推進。
「ロイヤルガーデンタワー天神町」
まちづくりカンパニーと和田コーポレーションが販売代理として連携し、販売業務を展開。



「T&T部門（両備トランスポート）・まちづくり部門（両備ホームズ）」

NEXT

安全・環境配慮を両立した危険品物流体制構築

多様化・高度化する顧客ニーズに対応し、物流サービスのさらなる向上を図るため、津山地区において危険品倉庫の新築を進めています（2027年3月稼働予定）。本事業は、両備トランスポートカンパニーと両備ホームズが連携し、安全性と法令遵守を徹底した危険品物流スキームの構築を推進するものです。施設には、消防法に準拠した最新設備や防爆対策を導入するほか、倉庫管理システムによる入出庫のトレーサビリティを確保し、安全かつ安定した危険品保管・物流体制を整備します。また、安全性と環境配慮を両立した施設整備を通じて、地域産業を支える物流インフラの強化や、雇用創出による地域活性化にも取り組んでいます。今後は、このモデルを全国へ展開し、広域対応可能な物流ネットワークを構築することで、持続可能な物流サービスの提供と国内市場における成長、さらには地方創生と企業価値向上の両立を目指してまいります。



「くらしづくり部門」

「食」を軸とした地域コミュニティの形成

サルボ両備を中心に、両備ストアカンパニー、両備ヘルシーケア等グループ各社が連携し、「食」を軸とした地域価値創造を推進しています。具体的には、地元農家様との包括契約や食材を活用した商品開発、健康志向メニューの開発、イベント・マルシェの共同開催等を通じ、単なる飲食提供に留まらない“地域コミュニティ形成”に取り組んでいます。また、サービスエリアや商業施設等のリアル拠点でのIPコンテンツとのコラボ企画や、グループ横断での販促・集客施策を行なうことで、グループシナジーの最大化とエリア価値向上を図っています。

「グループ横断」

両備グループ学生応援プロジェクト

両備グループは、物価高騰により学生の食生活への影響が広がるなか、岡山大学様とIPU・環太平洋大学様で「学食100円プロジェクト」を開始しました。1カ月のうち特定の1週間、学食の朝食やランチを100円で提供し、学生の健康と学びを支援しています。地域の未来を担う人財の育成につながる取り組みです。



「まちづくり部門」

グループ各社の不動産開発支援

不動産関連事業を担うまちづくり部門では、不動産開発に関する豊富な知見と多様な専門性を活かし、両備グループ各社が手がけるプロジェクトを企画段階から支援しています。グループが持つ多彩な業種・専門性を結集し、さまざまなニーズに応える高付加価値な不動産商品を創出。地域の賑わいを生み出すとともに、グループ資産の有効活用を推進しています。

「横断組織（MIRAHOOP）」

モビリティ・観光業界の未来をつなぐ、「MIRAHOOP（ミラフープ）」始動

新会社「MIRAHOOP」は、モビリティ・観光業界が抱える慢性的な人手不足、非効率な業務フロー、複雑なコンプライアンス対応といった課題を解決するため、2025年6月に立ち上がりました。業界の常識は世間の非常識。この前提に立ち、最新のAI技術を活用して業界の商習慣を変革する革新的なシステムを提供します。すべてのステークホルダーをつなぎ、誰もがもっと自由に快適に移動できる社会の実現を目指しています。今後は、より多くの事業者への導入を進め、さらなるサービスの拡充と利便性の向上を図りながら、業界に新たなスタンダードを築いてまいります。



MIRAHOOP

NEW!

「くらしづくり部門（両備エネシス・両備テクノモビリティ）」

モビリティ分野における整備体制強化と人材育成推進

両備エネシス、両備テクノモビリティカンパニーは連携して、小型車両を中心とした車検・整備体制の拡充を進めています。リース車両需要の拡大を見据え、整備工場の機能強化に加え、人材の採用・育成にも注力することで、安全・安心なモビリティサービスの提供体制を強化しています。



| 横断組織 (MIRAHOOP) |

NEW!

貸切バス受発注システム「mobitas(モビタス)」

MIRAHOOPでは、貸切バスの受発注業務をデジタル化するサービス「mobitas」を展開しています。これまで貸切バスの受発注は、旅行会社とバス事業者の間で電話やFAX、メールによるアナログなツールによるやり取りが中心でした。mobitasは、こうした業務をオンライン上で一元管理できるサービスとして開発されたもので、生産性向上や業務負担の軽減、ペーパーレス化の推進を支援しています。

本サービスは、全国のバス事業者や旅行会社など約140社が参画する「貸切バス業務改革連絡会」とともに構築を進めてきました。現在は、MIRAHOOPが主体となって「mobitas報告会」を開催し、現場の声を反映しながら機能改善や活用促進に取り組んでいます。2026年3月には岡山・備後地区で運用を開始し、現場での活用も本格化。今後もバス事業者と旅行会社をつなぐプラットフォームとして、貸切バス業界の生産性向上や働き方改革、環境負荷の低減に貢献していきます。



| T&T部門 |

組織の垣根を越えた人財育成

T&T部門のバス・鉄軌道ユニット、トランスポート・フェリーユニット、タクシーユニットでは、組織の枠を越えた連携による乗務担当社員の出向調整や人財の有効活用を推進しています。また、両備トランスポートに配属される新入社員には両備バスカンパニー主導の研修を全国で実施し、安全運行と接客力を育成。グループ全体で質の高い交通サービスを目指しています。



| 横断組織 (MIRAHOOP) |

高速バス乗り継ぎ予約サービス「コネモビ」

MIRAHOOPでは、全国のバス会社が運行する高速バス路線をつなぐサービス「コネモビ-Connecting Mobility Services-」を展開しています。スマートフォンから乗り継ぎを含めた予約・決済ができ、乗車券の表示までワンストップで完結。これまで別々に予約する必要があったバス路線も、ひとつの移動サービスとして利用できるようになります。本サービスにより、利用者の利便性向上に加え、航空機や自家用車に比べて環境負荷の少ないバス利用の促進にも貢献。また、バス会社にとっては運転者不足や労働時間の課題への対応を進めながら、地域間の移動需要や観光需要の創出にもつながることが期待されています。これまでの実証実験で得た知見をもとに、2026年度には予約システムをリニューアルし、全国で利用できる乗り継ぎサービスとして本格展開を進めています。



| くらしづくり部門 (三菱ふそう中国地区販売) |

NEXT

地域の移動と物流の未来を支える

2025年2月より、グループの一員となった両備グループ入りした三菱ふそう中国地区販売は、広島・山口・鳥取・島根の4県を対象に、三菱ふそう製のトラック・バスおよび産業用エンジンの販売、整備、部品販売を展開する地域密着型の大規模ディーラーです。両備グループが長年培ってきた公共交通・整備事業との連携により、販売・サービス体制の強化と経営効率の向上を図るほか、ICTや物流事業との融合を通じて、地域の移動と物流の未来を支える新たな価値創造に挑戦してまいります。

DXのシナジー

| T&T部門 (両備トランスポート)・ICT部門 |

NEXT

「トラックマンポータル」の開発

物流業界全体の生産性向上と業務効率化を目的に、物流プラットフォーム「トラックマンポータル」の開発を進めています。本ポータルは、運行管理、配車計画、各種事務作業など物流業務における基本機能を一体化し、現場と管理業務をシームレスにつなぐ仕組みとして構築しています。デジタル技術を活用することで、業務の見える化・標準化を推進し、物流現場の負担軽減と生産性向上を実現。また、「トラックマンポータル」を起点に、全国の協力業者とのネットワーク連携を強化し、「仲間づくり」を進めることで、持続可能で競争力のある物流体制の構築を目指しています。本取り組みは、グループ内外のシナジーを創出し、従来の枠にとられない次世代型物流ビジネスモデルへの変革を支える基盤となるものです。

| T&T部門 (両備トランスポート)・ICT部門 |

NEXT

「R-LOGI for WMS」の実稼働

両備トランスポートカンパニーでは、両備システムズとの共同開発により、トランスポート事業に特化した独自の倉庫管理システム「R-LOGI for WMS」を開発し、2026年度より本格運用を進めています。

本システムは、現場業務に即した機能設計を特徴とし、入出庫管理や在庫情報のリアルタイム可視化、業務プロセスの標準化を実現。これにより、倉庫運営の効率化と生産性向上を図るとともに、データ活用を通じた高度な物流オペレーションを可能にします。グループ内のICT技術と物流現場の知見を融合した取り組みとして、グループシナジーの創出と、次代に対応した物流ビジネスモデルへの変革を支える基盤となっています。

| ICT部門 (両備システムズ) |

「GROWTH(グロース)」活動でグループ全体のDX推進

両備システムズでは、グループ各社のDXや業務効率化に向けた課題解決に取り組むなかで、グループ全体として未だ十分に着手できていない領域に目を向け、持続的な成長を目指す取り組みとして「GROWTH」活動を立ち上げました。

本活動では、社内カンパニーを横断する「Growth Team」を設置し、グループ各社に対するIT支援の窓口を一元化。毎年、各社へのヒアリングを通じて、事業課題やITニーズを把握し、その内容をもとに個社カルテを作成、共有しています。この個社カルテを起点に、IT投資・予算策定の支援を行ないながら、グループ全体のDX推進を継続的に進めています。グループ各社の多様な業務に寄り添い、ITの力を通じて、将来に向けた成長基盤の構築を目指しています。



02 社内外の仲間との連携

新たな共創パートナーを

| ICT部門（両備システムズ） |

NEXT

協業・M&Aの推進

両備システムズは「ともに挑む、ともに創る。」を掲げ、外部連携によるオープンイノベーションを推進。スタートアップとの連携やM&Aも視野に入れ、事業拡大とICT部門での2030年売上500億円達成を目指しています。また、その実現に向け、社内体制の強化も進めています。

| ICT部門（両備システムズ） |

研究開発投資の推進

最新の技術が次々と登場するなかで、両備システムズでは高いスキルを持つ技術者を育て、組織全体で研究開発を進める体制づくりに取り組んでいます。2025年からは費用管理のガイドラインを導入し、計画的な投資と成果の可視化を推進しています。また、研究開発成果を事業へとつなげる橋渡し機能を強化し、イノベーション創出の再現性向上を目的としイノベーションマネジメントシステムの構築への取り組みを行なっています。各カンパニー・本部から部長クラスおよびビジネス企画担当の課長クラスを選抜し、外部プログラムに参画。国際規格の学習や他社とのディスカッションを通じて実践的な知見を獲得し、社内への展開を図るとともに、次期中期経営計画への組み込みを進めています。

| くらしづくり部門（両備エネシス） |

NEW!

環境・エネルギー分野への積極投資

両備エネシスでは、環境・エネルギー分野における新たな事業展開に向け、関連ファンドへの投資を進めています。持続可能な社会の実現に資する分野への分散投資を行なうことで、経済的価値の創出と地域の課題解決への貢献を目指します。

DXのシナジ

| T&T部門（バス・鉄軌道事業各社） |

手作業・転記作業撲滅プロジェクト

バス・鉄軌道ユニットでは、「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）」を活用した定型業務の自動化によって、業務効率化とサービス品質向上を目指す「手作業・転記作業撲滅プロジェクト」を推進。高速バスの業務では精算業務の自動化により、作業時間短縮と負担軽減を実現しています。



03 次代に向けたチャレンジ

新たな事業領域への挑戦

| T&T部門（津エアポートライン） |

伊勢湾観光DMO化へ向けた取り組み

訪日外国人増加に対応し、中部国際空港と津を結ぶ海上アクセスの利便性向上が進行しています。国の中部運輸局主導で、津エアポートラインが観光客向けチケットを企画し利便性を強化。将来的には伊勢湾エリア全体の観光振興を図るDMO設立にも協力予定です。

※ DMO：観光地域づくり法人



| 横断組織（Rヨット） |

NEXT

ヨットスタイルという新たな客船サービス

Rヨットでは、2027年に日本初となるヨットスタイル客船「SEFU（せふ）」の就航を予定しています。

乗客定員は約120名。大型客船とは異なる、ゆとりある船内空間ときめ細かなサービスにより、上質なクルーズ体験を提供します。瀬戸内海や沖縄・南西諸島など、大型船では入港が難しい島々を巡る航路を計画しており、地域の新たな魅力を発信していきます。

また、船尾には海へ直接アクセスできるマリーナデッキを備え、海をより身近に感じられる空間を実現。小型ボートでの離島上陸やシュノーケリング、シーカヤックなど、寄港地ごとの自然や文化を体感できる新たな船旅を提供します。

これまでにないクルーズ体験を通じて、瀬戸内や島しょ部における新たな観光価値の創出を目指しています。



| ICT部門 |

「APT（アプト）」とともに推進する物流業界のDX化

2026年7月、物流倉庫の自動化設備およびマテリアルハンドリングシステムの設計・導入・保守を手掛けるAPTが両備グループの一員となりました。両備システムズが有するITソリューションとAPTが有する物流自動化技術を融合し、物流施設の企画・設計から構築、運用までを一気通貫で支援する新たなサービスの提供を推進します。また、WMS（倉庫管理システム）やトラックバース管理システムをはじめとする物流・流通ソリューションを拡充し、両備グループの物流・交通・建設・不動産等の事業アセットを活用することで、物流業界を中心としたサプライチェーン全体の最適化を支援する事業展開を進めてまいります。



| くらしづくり部門（両備ヘルシーケア） |

New!

海外人財向け入国後講習の実施

両備ヘルシーケアでは、海外人財を積極的に雇用するとともに、技能実習生として来日した海外人財に対し、日本語や生活習慣を学ぶ「入国後講習」を実施。介護現場で求められる日本語力や技術の習得はもちろんのこと、美観地区や岡山後楽園といった地域の文化に触れる機会も大切にしています。単なる技能習得にとどまらず、地域への理解と愛着を育むことで、将来にわたり地域の介護を支える存在へ。地域に根差し、ともに歩む海外人財の育成に取り組んでいます。



| ICT部門（両備システムズ） |

クラウドビジネスの強化

両備システムズは、「Salesforce」や「AWS」など信頼性の高いクラウドを活用し、企業や自治体向けに導入から運用まで一貫したサポートを提供しています。特に自治体には、安全性の高い「R-Cloudサービス」を通じて住民サービスのデジタル化を推進しています。



| ICT部門（両備システムズ） |

New!

「デジタルマーケットプレイス」への対応

「デジタルマーケットプレイス（DMP）」は、行政がWEBサイト上でサービスを簡単に比較・検討し、迅速に調達できる新しいIT調達手法です。2024年10月に正式リリースされ、2025年1月から行政機関による利用が開始されています。両備システムズは現在「R-STAGE 家庭児童相談」「こどもの杜」「R-STAGE 窓口DXサービス」「マルコポーロ 登記履歴台帳システム」「AITEI」の5つのサービスを掲載。今後生成AIなどを活用したエージェントサービスなどについても掲載拡充を進める予定です。

| グループ横断 |

デザインを起点に、新たな事業領域へ

2026年4月、両備グループのブランドを形づくってきた社内デザインチーム「クリエイティブサポート部」による企画展「クリエイティブ展 ～RYOBI BRANDのこれまでとこれから～」を開催しました。両備グループにおけるデザイン事例を通して、完成したデザインだけでなく、そこに込めた想いや課題解決に至るまでの思考プロセスを紹介。「デザインとは見た目を整えるだけでなく、新たな価値を生み出し、暮らしや地域を豊かにするもの」という考えを、子どもから大人まで楽しみながら体感していただきました。また、小豆島での植物工場建設構想や未来型コミュニティバスを、生成AIを駆使した映像で表現するなど、両備グループが描く未来のプロジェクトも展示。培ってきたデザインの力を社内外に発信するとともに、その力を新規事業創出の推進力へと転換していく。本展は岡山・瀬戸内の暮らしをより魅力的にする可能性を探りながら、地域の皆様と共に次の時代を考える、新たな挑戦の出発点となりました。



R-STAGE



家庭児童相談



こどもの杜



